2023年度　看護第1学科

授業シラバス

学校法人阪和学園 錦秀会看護専門学校

別表第１　授業科目・単位数および時間数（看護専門課程　看護第1学科）

区分	授業科目	授業科目	単位	時間数	1年次		2年次		3年次	
					単位	時間	単位	時間	単位	時間
基礎分野	科学的思考の基盤	論理学	1	30	1	30				
		情報科学	2	45			2	45		
		物理学	1	30	1	30				
		生命科学	1	30	1	30				
	人間と人間生活社会の理解	教育学	1	30			1	30		
		倫理学	1	30	1	30				
		心理学	1	30	1	30				
		人間関係論	1	30			1	30		
		社会学	1	30	1	30				
		医療英語	1	30	1	30				
		スポーツ科学	2	45	1	15	1	30		
	小　　計		13	360	8	225	5	135	0	0
専門基礎分野	人体の構造と機能	解剖生理学Ⅰ　（人体の構造）	1	15	1	15				
		解剖生理学Ⅱ　（呼吸・循環・体温）	1	30	1	30				
		解剖生理学Ⅲ　（消化吸収）	1	30	1	30				
		解剖生理学Ⅳ　（人体の恒常性）	1	30	1	30				
		解剖生理学Ⅴ　（脳神経・感覚器）	1	30	1	30				
		生化学	1	30	1	30				
		栄養学	1	30	1	30				
	疾病の成り立ちと回復の促進	薬理学	1	30	1	30				
		微生物学	1	30	1	30				
		病態生理学総論	1	15	1	15				
		病態生理学Ⅰ　（呼吸器･循環器･血液・腎泌尿器）	2	45	2	45				
		病態生理学Ⅱ　（消化器･内分泌･代謝・免疫）	1	30	1	30				
		病態生理学Ⅲ　（脳神経･運動・感覚器）	1	30	1	30				
		病態生理学Ⅳ　（小児･精神・女性生殖）	1	30	1	30				
	健康支援と社会保障制度	関係法規	2	30			2	30		
		社会福祉論	1	30			1	30		
		総合医療論	1	15	1	15				
		公衆衛生学	1	15			1	15		
		レクレーション論（アロマテラピー・音楽療法）	1	30			1	30		
	小　　計		21	525	16	420	5	105	0	0
専門分野Ⅰ	基礎看護学	看護学概論Ⅰ	1	30	1	30				
		看護学概論Ⅱ（看護倫理・看護理論）	1	30			1	30		
		基礎看護学方法論Ⅰ（ヒューマンケアの基本技術）	1	30	1	30				
		基礎看護学方法論Ⅱ-1（環境、活動・休息、清潔・衣生活）	2	45	2	45				
		基礎看護学方法論Ⅱ-2（食事、排泄）	1	30	1	30				
		基礎看護学方法論Ⅲ（ヘルスアセスメント）	1	30	1	30				
		基礎看護学方法論Ⅳ（呼吸・循環を整える技術）	1	30	1	30				
		基礎看護学方法論Ⅴ（創傷管理、与薬、感染予防、安全）	1	30	1	30				
		基礎看護学方法論Ⅵ（看護診断）	1	30	1	30				
		基礎看護学実習Ⅰ	1	45	1	45				
		基礎看護学実習Ⅱ	2	90			2	90		
	小　　計		13	420	10	300	3	120	0	0
専門分野Ⅱ	成人看護学	成人看護学概論	1	30	1	30				
		成人看護学方法論Ⅰ（生涯にわたり疾病コントロールが必要な人の看護）	1	30			1	30		
		成人看護学方法論Ⅱ（生体防御の低下、感染により障害を受けた人の看護）	1	30			1	30		
		成人看護学方法論Ⅲ（身体の一部を喪失した人の看護）	1	30			1	30		
		成人看護学方法論Ⅳ（生命危機状態にある人の看護）	1	30			1	30		
		成人看護学方法論Ⅴ（事例展開）	1	30			1	30		
		成人看護学実習Ⅰ（急性症状を示す対象の看護）	2	90					2	90
		成人看護学実習Ⅱ（生涯にわたり疾病コントロールが必要な対象の看護）	2	90			2	90		
		成人看護学実習Ⅲ（重症から終末期の状態にある対象の看護）	2	90					2	90
	老年看護学	老年看護学概論	1	30	1	30				
		老年看護学方法論Ⅰ（老年者の看護）	2	30			2	30		
		老年看護学方法論Ⅱ（事例展開）	1	30			1	30		
		老年看護学実習Ⅰ（介護老人保健施設、介護老人福祉施設）	2	90					2	90
		老年看護学実習Ⅱ（ADL機能低下にある人の看護）	2	90			2	90		
	小児看護学	小児看護学概論	1	30			1	30		
		小児看護学方法論Ⅰ（治療と看護）	1	30			1	30		
		小児看護学方法論Ⅱ（小児の援助技術）	1	30			1	30		
		小児看護学方法論Ⅲ（事例展開）	1	30			1	30		
		小児看護学実習	2	90					2	90
	母性看護学	母性看護学概論	1	30			1	30		
		母性看護学方法論Ⅰ（周産期の看護）	1	30			1	30		
		母性看護学方法論Ⅱ（母性援助技術）	1	30			1	30		
		母性看護学方法論Ⅲ（事例展開）	1	30			1	30		
		母性看護学実習	2	90					2	90
	精神看護学	精神看護学概論	1	30	1	30				
		精神看護学方法論Ⅰ（治療と看護）	2	30			2	30		
		精神看護学方法論Ⅱ（事例展開）	1	30			1	30		
		精神看護学実習	2	90					2	90
	小　　計		38	1320	3	90	23	690	12	540
統合分野	在宅看護論	在宅看護論概論	1	30			1	30		
		在宅看護論方法論Ⅰ（在宅看護技術）	2	30			2	30		
		在宅看護論方法論Ⅱ（事例展開）	1	30			1	30		
		在宅看護論実習	2	90					2	90
	看護の統合と実践	看護の統合と実践Ⅰ（救急看護）	1	30					1	30
		看護の統合と実践Ⅱ（医療安全・災害看護・国際看護）	1	30					1	30
		看護の統合と実践Ⅲ（看護研究）	1	30					1	30
		看護の統合と実践Ⅳ（看護管理・統合演習）	1	30					1	30
		統合実習	2	90					2	90
	小　　計		12	390	0	0	4	90	8	300
計			97	3015	37	1035	40	1140	20	840
科目外活動			248		62		82		104	
合　　計			97	3263	37	1097	40	1222	20	944

新カリキュラム　別表第1　授業科目・単位数および時間数（看護専門課程　看護第1学科）

分区	授業科目		単位	時間数	1年次		2年次		3年次	
					単位	時間	単位	時間	単位	時間
基礎分野	科学的思考の基盤	論理学	1	30	1	30				
		情報科学	2	45			2	45		
		物理学	1	30	1	30				
		生命科学	1	30	1	30				
	人間と人間生活、社会の理解	教育学	1	30			1	30		
		倫理学	1	30	1	30				
		心理学	1	30	1	30				
		人間関係論	2	45			2	45		
		社会学	1	30	1	30				
		医療英語	1	30			1	30		
		スポーツ科学Ⅰ	1	15	1	15				
		スポーツ科学Ⅱ	1	30			1	30		
	小　　計		14	375	7	195	7	180	0	0
専門基礎分野	人体の構造と機能	解剖生理学Ⅰ　（人体の構造）	1	15	1	15				
		解剖生理学Ⅱ　（呼吸・循環・体温）	1	30	1	30				
		解剖生理学Ⅲ　（消化吸収）	1	30	1	30				
		解剖生理学Ⅳ　（人体の恒常性）	1	30	1	30				
		解剖生理学Ⅴ　（脳神経・感覚器）	1	30	1	30				
		生化学	1	30	1	30				
		栄養学	1	30	1	30				
	疾病の成り立ちと回復の促進	薬理学	1	30	1	30				
		微生物学	1	30	1	30				
		病態生理学総論	1	15	1	15				
		病態生理学Ⅰ　（呼吸器･循環器･血液・腎泌尿器）	2	45	2	45				
		病態生理学Ⅱ　（消化器･内分泌･代謝・免疫）	1	30	1	30				
		病態生理学Ⅲ　（脳神経･運動・感覚器）	1	30	1	30				
		病態生理学Ⅳ　（小児･精神・女性生殖）	1	30	1	30				
		病態生理診断学	1	30			1	30		
	健康支援と社会保障制度	関係法規	2	30			2	30		
		社会福祉論	1	30			1	30		
		総合医療論	1	30	1	30				
		公衆衛生学	1	15			1	15		
		レクレーション論（アロマセラピー・音楽療法）	1	30			1	30		
	小　　計		22	570	16	435	6	135	0	0
専門分野	基礎看護学	看護学概論Ⅰ	1	30	1	30				
		看護学概論Ⅱ（看護倫理・看護理論）	1	30			1	30		
		基礎看護学方法論Ⅰ（ヒューマンケアの基本技術）	1	30	1	30				
		基礎看護学方法論Ⅱ-1（環境・活動・休息）	1	30	1	30				
		基礎看護学方法論Ⅱ-2（清潔・衣生活）	1	30	1	30				
		基礎看護学方法論Ⅱ-3（食事・排泄）	1	30	1	30				
		基礎看護学方法論Ⅲ（ヘルスアセスメント）	1	30	1	30				
		基礎看護学方法論Ⅳ（呼吸・循環を整える技術）	1	15	1	15				
		基礎看護学方法論Ⅴ（創傷管理・与薬・感染予防・安全）	1	30	1	30				
		基礎看護学方法論Ⅵ（看護診断）	1	30	1	30				
		基礎看護学方法論Ⅶ（臨床実践）	1	30			1	30		
	地域・在宅看護論	地域看護学概論	1	30	1	30				
		地域看護学方法論Ⅰ（在宅看護技術）	2	30			2	30		
		地域看護学方法論Ⅱ（事例展開）	1	30			1	30		
		地域看護学方法論Ⅲ（地域連携論）	2	45			2	45		
	成人看護学	成人看護学概論	1	30	1	30				
		成人看護学方法論Ⅰ（生涯にわたり疾病コントロールが必要な人の看護）	1	30			1	30		
		成人看護学方法論Ⅱ（生体防御の低下、感染により障害を受けた人の看護）	1	30			1	30		
		成人看護学方法論Ⅲ（身体の一部を喪失した人の看護）	1	30			1	30		
		成人看護学方法論Ⅳ（生命危機状態にある人の看護）	1	30			1	30		
		成人看護学方法論Ⅴ（事例展開）	1	30			1	30		
	老年看護学	老年看護学概論	1	30	1	30				
		老年看護学方法論Ⅰ（老年者の看護）	2	30			2	30		
		老年看護学方法論Ⅱ（事例展開）	1	30			1	30		
	小児看護学	小児看護学概論	1	30			1	30		
		小児看護学方法論Ⅰ（治療と看護）	1	30			1	30		
		小児看護学方法論Ⅱ（小児の援助技術）	1	30			1	30		
		小児看護学方法論Ⅲ（事例展開）	1	30			1	30		
	母性看護学	母性看護学概論	1	30			1	30		
		母性看護学方法論Ⅰ（周産期の看護）	1	30			1	30		
		母性看護学方法論Ⅱ（母性援助技術）	1	30			1	30		
		母性看護学方法論Ⅲ（事例展開）	1	30			1	30		
	精神看護学	精神看護学概論	1	30	1	30				
		精神看護学方法論Ⅰ（治療と看護）	2	30			2	30		
		精神看護学方法論Ⅱ（事例展開）	1	30			1	30		
	看護の統合と実践	看護の統合と実践Ⅰ（医療安全・救急看護・災害看護）	2	60					2	60
		看護の統合と実践Ⅱ（国際看護）	1	30			1	30		
		看護の統合と実践Ⅲ（看護研究）	1	30			1	30		
		看護の統合と実践Ⅳ（看護管理・統合演習）	1	30					1	30
	小　　計		44	1200	13	375	28	735	3	90
	臨地実習	基礎看護学実習Ⅰ	1	45	1	45				
		基礎看護学実習Ⅱ	2	90			2	90		
		地域看護学実習	2	90					2	90
		成人老年看護学実習Ⅰ	2	90			2	90		
		成人老年看護学実習Ⅱ	2	90			2	90		
		成人老年看護学実習Ⅲ	2	90					2	90
		小児看護学実習	2	90					2	90
		母性看護学実習	2	90					2	90
		精神看護学実習	2	90					2	90
		アクティブエイジング実習	2	90					2	90
		ヘルスプロモーション実習	2	90					2	90
		統合実習	2	90					2	90
	小　　計		23	1035	1	45	6	270	16	720
合計			103	3180	37	1050	47	1320	19	810
教科外活動				258		68		84		106
		総計	103	3438	37	1118	47	1404	19	916

シラバス　目次

２０２１年度入学生（４期生）

〈統合分野〉

看護の統合と実践Ⅰ（救急看護）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1
看護の統合と実践Ⅱ（医療安全・災害看護・国際看護）・・・・・・・・・・・・・・・・2
看護の統合と実践Ⅲ（看護研究）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3
看護の統合と実践Ⅳ（看護管理・統合演習）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・4

２０２２年度入学生（5期生）

〈基礎分野〉

情報科学 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・6
教育学 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・8
人間関係論 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・9
医療英語・・ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・10
スポーツ科学Ⅱ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 11

〈専門基礎分野〉

病態生理診断学 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・12
関係法規 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 13
社会福祉論・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 15
公衆衛生学 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 16
レクレーション論（アロマテラピー・音楽療法）・・・・・・・・・・・・・17

〈専門分野〉

看護学概論Ⅱ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・19
基礎看護学方法論Ⅶ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・20
地域看護学方法論Ⅰ（在宅看護技術）・・・・・・・・・・・・・・・・・・21
地域看護学方法論Ⅱ（事例展開）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・22
地域看護学方法論Ⅲ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・23
成人看護学方法論Ⅰ（生涯にわたり疾病コントロールが必要な人の看護）・・・・・・24
成人看護学方法論Ⅱ（生体防御の低下、感染により障害を受けた人の看護 ・・・・26
成人看護学方法論Ⅲ（身体の一部を喪失した人の看護）・・・・・・・・・・27
成人看護学方法論Ⅳ（生命危機状態にある人の看護）・・・・・・・・・・・28
成人看護学方法論Ⅴ（事例展開）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・30
老年看護学方法論Ⅰ（老年者の看護）・・・・・・・・・・・・・・・・・・31
老年看護学方法論Ⅱ（事例展開）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・32
小児看護学概論・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・33
小児看護学方法論Ⅰ（治療と看護） ・・・・・・・・・・・・・・・・・34
小児看護学方法論Ⅱ（小児の援助技術）・・・・・・・・・・・・・・・・・35
小児看護学方法論Ⅲ（事例展開）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・36
母性看護学概論・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・37
母性看護学方法論Ⅰ（周産期の看護）・・・・・・・・・・・・・・・・・・38
母性看護学方法論Ⅱ（母性援助技術）・・・・・・・・・・・・・・・・・・41
母性看護学方法論Ⅲ（事例展開）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・42
精神看護学方法論Ⅰ（治療と看護）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・43
精神看護学方法論Ⅱ（事例展開）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・45
看護の統合と実践Ⅱ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・46
看護の統合と実践Ⅲ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・47

シラバス　目次

２０２３年度入学生（６期生）

〈基礎分野〉
論理学　・・48
物理学　・・49
生命科学　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・50
倫理学　・・51
心理学　・・52
社会学　・・53
スポーツ科学Ⅰ　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・54
〈専門基礎分野〉
解剖生理学Ⅰ（人体の構造）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・55
解剖生理学Ⅱ（呼吸・循環・体温）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・56
解剖生理学Ⅲ（消化吸収）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・57
解剖生理学Ⅳ（人体の恒常性）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・58
解剖生理学Ⅴ（脳神経・感覚器）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・59
生化学　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・60
栄養学　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・61
薬理学　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・62
微生物学　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・63
病態生理学総論　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・64
病態生理学Ⅰ（呼吸器・循環器・血液・腎泌尿器）　・・・・・・・・・・・・・・・・65
病態生理学Ⅱ（消化器・内分泌・代謝・免疫）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・67
病態生理学Ⅲ（脳神経・運動・感覚器）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・68
病態生理学Ⅳ（小児・精神・女性生殖器）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・70
総合医療論　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・71
〈専門分野〉
看護学概論Ⅰ　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・72
基礎看護学方法論Ⅰ　（ヒューマンケアの基本技術 ）　・・・・・・・・・・・・・・・73
基礎看護学方法論Ⅱ－１　（環境・活動・休息）　・・・・・・・・・・・・・・・・・74
基礎看護学方法論Ⅱ－２　（清潔・衣生活）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・76
基礎看護学方法論Ⅱ－３　（食事・排泄）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・78
基礎看護学方法論Ⅲ（ヘルスアセスメント）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・79
基礎看護学方法論Ⅳ（呼吸・循環を整える技術）　・・・・・・・・・・・・・・・・・81
基礎看護学方法論Ⅴ（創傷管理、与薬、感染予防、安全）　・・・・・・・・・・・・82
基礎看護学方法論Ⅵ（看護診断）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・84
地域看護学概論　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・85
成人看護学概論　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・86
老年看護学概論　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・87
精神看護学概論　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・88

統合分野

授業科目名	単位（時間数）	担当講師名	時 期
看護の統合と実践Ⅰ （救急看護）	１単位（30）	芝田里花 表佳代 田村麻衣	３年次 前 期・後 期

【授業の概要および目標】

生命倫理と医の倫理の基本的考え方を理解する。メディカルコントロール体制下における救急現場、搬送過程における救急医療についての知識を系統的に学習する。また救急医療における看護の役割を理解した上でその実践を学び、急変時の基本的な対応方法及び技術を習得する。

担当講師の実務経験	病院において看護師として従事した経験のある講師が担当する。

授業計画		授　業　内　容	担当
回	時間		
1	2	救急医療システムについて	表
2	2	救急看護体制と看護の展開 ・初期・第二次救急医療・第三次救急医療における対応	
3	2	・ドクターヘリ、トリアージ、メディカルコントロール体制 ・院内急変時、在宅、学校、災害時における対応	芝田
4	2	救急看護の役割、傷病者への接遇	
5	2	救急医療施設における看護の実際（救急患者の観察とアセスメント） ・周囲の状況確認とスタンダードプリコーション ・全身の外観と観察 ・緊急検査	表
6	2		
7	2	ホスピタルケアと応急処置の実際	田村
8	2	【演習】　救急時の看護技術 一次救命処置（ＢＬＳ）	
9	2		表 田村
10	2	随伴症状の観察とアセスメント 脳神経系、呼吸器系、循環器系、消化器系、泌尿器・生殖器系 筋・骨格系、内分泌・代謝系、精神状態	
11	2		芝田
12	2	【演習】　救急時の看護技術 急変時の観察とアセスメント	
13	2		田村
14	2	救急急変時に必要な看護技術	
15	2	筆記試験／まとめ	芝田・表 田村

【教科書・参考書、参考資料等】

山勢博彰編『系統看護学講座 別巻　救急看護学（第６版）』医学書院

【評価の方法】

筆記試験

【学生へのコメント】

統合分野

授業科目名	単位（時間数）	担当講師名	時 期
看護の統合と実践Ⅱ （医療安全・災害看護・国際看護）	1単位（30）	神藤めぐみ 土井智恵子　荏原優子	3年次 前期・後期

【授業の概要および目標】

安全で質の高い医療・看護を提供するために、医療安全の基礎的知識を学ぶ。
災害発生から自分や家族の身を守る防災や減災対策を習得すると同時に、災害という異常事態のなかで医療機関が行う救護活動の全体像から災害看護の役割を理解し、将来、災害救護活動の推進者として成長できるように基礎的能力を養う。
実際に海外で看護活動を行う際に、現地の異文化に沿ったケアの展開ができるための諸要件を理解する。

担当講師の実務経験	特別養護老人ホームにおいて看護師として従事する講師、および海外において看護活動に従事した経験のある講師が担当する。

授業計画 回	授業計画 時間	授　業　内　容	担当
1	2	医療安全 (1) 医療事故予防及び安全の基盤となる考え方 (2) 医療安全の背景と経緯	神藤
2	2	(3) リスク発生の原理とヒューマンエラー	
3	2	(4) リスク管理とその対策	
4	2	(5) 病院におけるリスクマネジメント (6) Patient safety	
5	2	(7) 医療チームによる取り組み (8) 医療の不確実性と医療の質評価	
6	2	災害発生の現状と今日的課題 (1) 災害看護の歴史的発展 (2) 災害の定義・災害と健康障害	土井 荏原
7	2	(3) 災害救援活動と看護の役割 (4) 災害サイクルに準じた看護の特性	
8	2	ＳＴＡＲＴトリアージの実際	
9	2	(5) 防災対策の基本	
10	2	地域防災セミナー参加	
11	2	国際看護とは (1) 国際看護に関連する基礎知識 (2) 国際看護活動と国際機関	
12	2	(3) 国際協力の仕組み	
13	2	(4) 異文化理解と国際看護活動	
14	2	(5) 異文化とケアの実際　(6) 異文化社会下での自己管理	
15	2	試験／まとめ	

【教科書】

系統看護学講座　専門分野　災害看護学・国際看護学
系統看護学講座　専門分野　医療安全

【評価の方法】

授業への貢献度、筆記試験、レポート

統合分野

授業科目名	単位（時間数）	担当講師名	時 期
看護の統合と実践Ⅲ （看護研究）	1 単位（30）	野村　佳香 中田　恵美	3 年次 前期・後期

【授業の概要および目標】

看護現象を客観的に捉え、その中に存在する疑問あるいは問題を科学的に探求する能力を養う。
看護現象を探求するための看護研究方法論の基礎を学習する。
研究課題に関して、文献検索、整理・分析し、既に明らかになっていること、あるいはまだ研究されていない事を明確にし、看護研究方法論の基礎を学習する。

授業計画		授　業　内　容	担当
回	時間		
1	2	看護研究とは（看護研究の意義）看護研究のプロセス　研究方法	野村
2	2	量的研究方法論・質的研究方法論、文献引用方法と文献リストの書き方	野村
3	2	看護研究オリエンテーション	中田
4	2	研究計画書作成・文献検索	
5	2	論文作成①	
6	2	論文作成②	
7	2	論文作成③	
8	2	論文作成④	
9	2	論文作成⑤	
10	2	発表原稿・発表資料作成①	
11	2	発表原稿・発表資料作成②	
12	2	発表原稿・発表資料作成③	
13	2	看護研究発表聴講①	
14	2	看護研究発表聴講②	
15	2	看護研究発表聴講③	

【教科書・参考書】　なし

【参考資料等】　講義の中で提示します

【評価の方法】

論文と発表

【学生へのコメント】

研究の基礎を学び、今後の研究発表に役立ててください。論文作成では、3 年間の集大成として、看護実践を振り返り作成しましょう。

統合分野

授業科目名	単位（時間数）	担当講師名	時 期
看護の統合と実践Ⅳ （看護管理・統合演習）	1 単位（30）	山本　利江子 金丸　宏枝	3 年次 後期

【授業の概要および目標】

看護管理の科学的かつ実践的な知識を深め、看護単位の運営に関する諸原則を学び、質の高い看護実践を可能にするための「しくみ」を構築する方策について学習する。

事例を通して緊急･突発の要件下での状況判断力と対応力を養う。模擬患者の急変場面において、医療安全・医療倫理を踏まえたフィジカルアセスメントと診療補助行為について学習する。

複数の模擬患者へ看護を行う際の業務の調整・安全確保の行動がとれる。

実務経験	病院において看護師として従事。

授業計画		授　業　内　容	
回	時間		
1	2	看護とマネジメント　看護管理学とは　看護におけるマネジメント 看護を取り巻く諸制度	山本
2	2	看護ケアのマネジメント 看護ケアのマネジメントと看護職の機能	
3	2	患者の権利の尊重	
4	2	安全管理、医療事故対策	
5	2	チーム医療、看護業務の実践、看護職のキャリアマネジメント	
6 7	2 2	看護サービスのマネジメント 組織目的達成のマネジメント 看護サービス提供のしくみづくり 人材のマネジメント	金丸
8	2	施設・設備環境のマネジメント 物品のマネジメント 情報のマネジメント 組織におけるリスクマネジメント サービスの評価	
9	2	【統合演習】 1．複数患者受け持ち演習 2．静脈血採血演習 3．フィジカルアセスメント演習	
10	2		
11	2		
12	2	振り返り・修正案 1．複数看護技術の実践 2．割り込み状況への対処	
13	2	統合演習まとめ	
14	2	マネジメントに必要な知識と技術	
15	2	終講試験／まとめ	山本・金丸

【教科書・参考書・参考資料等】 系統看護学講座　統合分野　看護管理　　医学書院
【評価の方法】 筆記試験、提出課題、演習評価
【学生へのコメント】 看護の管理って何だろう。興味をもってください。演習までの自己研修時間を活用して技術練習を実施してください。

基礎分野

授業科目名	単位（時間数）	担当講師名	時 期
情報科学	２単位（45）	宮本　孝志 尾形　尚子	２年次 前期・後期

【授業の概要および目標】

情報科学はコンピューターの理論や利用方法を追求する学問である。コンピューターの構造と基本的操作を理解することで，看護情報の処理や判断に役立てる。またその情報処理の知識を看護研究に活用する。

授業計画		授　業　内　容	
回	時間		
1	2	情報科学とは	宮本
2	2	コンピューターネットワーク	
3	2	ICT	
4	2	情報リテラシー	
5	2	インターネットによる通信と検索	
6	2	コンピューター操作方法 パソコンの基本的な知識と基本的な操作（マウス操作・文字入力）	
7	2	ワードの概要と基本的な操作 （文字装飾・テキストボックス・ワードアート・クリップアート） 資料作成	
8	2	エクセルの概要と基本的な操作(九・九の表作成と成績表作成と偏差値の計算)	
9	2	エクセルを用いて身長のデータを入力して、度数分布表を作成し、分散と標準偏差を求める。	
10	2	エクセルを用いて体重・身長のデータを入力して BMI を求め、そのヒストグラムを作成する。	
11	2	パワーポイントの概要と基本操作（文字の装飾・図形・グラフ・あみだくじ）	
12	2	パワーポイントを用いたプレゼンテーションの説明	
13	2	看護と情報処理	

14	2	統計処理 図示法、集団を表す代表的な数値（平均、分散、標準偏差 等）について 学習する。	尾形
15	2	母集団と標本の概念、正規分布などの確率分布について学習する。	
16	2	区間推定の基本的な考え方を理解する。	
17	2	検定に必要な概念（帰無仮説、対立仮説、有意水準 等）を理解する。	
18	2	平均値の検定、カイ 2 乗検定（分割表の独立性、適合度の検定 等）について 学習する。	
19 20	4	エクセルを利用した演習 （度数分布表、ヒストグラムの作成、平均、分散、標準偏差）	
21	2	エクセルを利用した演習（推定、検定、散布図）	
22	2	情報倫理	
23	1	終講試験／まとめ	尾形

【教科書・参考書、参考資料等】
高木晴良『系統看護学講座　基礎分野　統計学（第 7 版）』医学書院

【評価の方法】
レポート提出、筆記試験

【学生へのコメント】
パソコンは非常に便利な「道具」です。
いろいろな使い方を学んで、総合的に活用できる能力を身につけてください。

基礎分野

授業科目名	単位（時間数）	担当講師名	時 期
教　育　学	１単位（30）	金森　博之	２年次 前　期

【授業の概要および目標】
教育学の基礎や本質を学ぶとともに、看護における教育活動に応用できる能力を養います。
授業は、講義だけでなくワークショップ的な要素を交えながら実施します。

授業計画		授　業　内　容
回	時間	
1	2	教育学とは　看護と教育学
2	2	ケアと人間形成　出会いとしての学び
3	2	特別なニーズを持つ人へのサポートについて（発達障害の理解）（そのⅠ）
4	2	（そのⅡ）
5	2	グリーフケアの理論と現状（家族・遺族へのグリーフケア）
6	2	（そのⅡ）
7	2	（そのⅢ）
8	2	看護師のためのグリーフケア（そのⅠ）
9	2	（そのⅡ）
10	2	（そのⅢ）
11	2	看護の現場で活かせるカウンセリングマインド（そのⅠ）
12	2	（そのⅡ）
13	2	カウンセリングの技法（そのⅠ）
14	2	カウンセリングの技法（そのⅡ）
15	2	終講試験/まとめ

【教科書】
教科書は使用せず、資料を配布します

【評価の方法】
筆記試験

【学生へのコメント】

基礎分野

授業科目名	単位（時間数）	担当講師名	時 期
人間関係論	２単位（45）	中川　万喜子	２年次 前　期

【授業の概要および目標】

人間関係論は、社会心理学的な観点から人間の個人および集団関係における関係性を研究する。人間関係の基礎知識やスキル、カウンセリングを学ぶことで、看護にふさわしい人間関係について理解する。

授業計画		授　業　内　容
回	時間	
1	2	人間存在と人間関係 人間関係のとらえ方
2	2	社会的相互作用と社会的役割 援助的役割を実現するためのガイドライン
3	2	コミュニケーションとは
4	4	コミュニケーションの障害
5		援助的コミュニケーション：カウンセリングの技法
6	2	人間関係に関する研究と応用
7	2	カウンセリングとは
8	2	看護における人間関係 保健医療チームにおけるチームワーク
9	2	闘病生活を支える人間関係：患者、家族、保健医療従事者
10	4	終末期の患者と家族を支える人間関係 終末期ケアの特徴
11		患者との相互関係
12	2	家族の人間関係と看護師のかかわり
13	2	ソーシャルサポートを巡る人間関係
14	2	ノーマライゼーションをはぐくむ人間関係
15	6	体験学習プログラム（より良いコミュニケーション）
16		
17		
18	2	リフレクショングループワーク
19	6	カウンセリング演習
20		
21		
22	2	リフレクショングループワーク
23	1	終講試験/まとめ

【教科書・参考書，参考資料等】

教科書は使用せず、資料を配布します。

【評価の方法】

筆記試験

基礎分野

授業科目名	単位（時間数）	担当講師名	時 期
医療英語	１単位（30）	エイドリアン ウエバー　ジョン	２年次 後　期

【授業の概要および目標】

これからは、日本国内で外国人患者に応対することが多くなると予測される。この授業では、「外国人とのコミュニケーション方法の習得」という大きな枠組みでとらえ、英語だけではなく、やさしい日本語について考え、それを適切に使えるようになることを目的とする。また、これらの学習を通して、日本や諸外国の医療環境や社会・文化について関心をもつ姿勢も養う。

授業計画		授　業　内　容
回	時間	
1	2	Unit 1 - Basic expressions
2	2	Unit 2 - Simple Questions/Answers
3	2	Unit 3 - Practice with numbers
4	2	Unit 4 - Medical terms
5	2	Unit 5 - Directions
6	2	Unit 5 - Hospital Departments
7	2	Unit 6 - Questions about symptoms
8	2	Unit 6 - Explaining about symptoms
9	2	Unit 7 - Medical terms
10	2	Unit 8 - Asking about Medical conditions
11	2	Unit 8 - Explaining about Medical conditions
12	2	Unit 9 - types of medicine
13	2	Unit 10 - More medical terms
14	2	Unit 11 - Explaining about treatment
15	2	Unit 12 - conversations with a patient　　Final Test

【教科書】【参考書】

知念クリスティーン他『クリスティーンのやさしい看護英会話』医学書院、2017

【評価の方法】

レポート提出、筆記試験

授業の進行具合、皆さんの関心を見て、シラバスを変更することがあります。

その際は適宜説明します。

【学生へのコメント】

外国の人とのコミュニケーションに関心を持ち、積極的に授業に参加してください。

言葉は五感をフル活動させて身につけて下さい。

基礎分野

授業科目名	単位（時間数）	担当講師名	時 期
スポーツ科学Ⅱ	１単位（30）	山本　隆宣	２年次 前期・後期

【授業の概要および目標】

１年次で学んだ学習を通じて、学生自身が、成人期以降の適切な運動実践と自己のライフステージや心身の状態に応じた身体活動や健康増進活動の理論を生活の中に取り入れ、豊かなライフスタイルを主体的に形成する能力を醸成する。

授業計画		授　業　内　容
回	時間	
1	2	身体運動の意味と意義
2	2	スポーツ医学
3	2	スポーツと呼吸循環機能
4	2	スポーツと神経
5	2	スポーツとメディカルケア
6	2	スポーツと疲労
7	2	オリエンテーションとストレッチング
8	2	器械体操
9	2	器械体操
10	2	器械体操とサーキットトレーニング
11	2	バレーボール
12	2	バレーボール
13	2	バスケットボール
14	2	バスケットボール
15	2	終講試験/まとめ

【教科書・参考書，参考資料等】

教科書は使用せず、資料を配布します。

【評価の方法】

筆記試験と実技試験

【学生へのコメント】

生命科学と生理学の基礎的学習はスポーツ科学を理解するのに重要である。

１組は 6/27　４限目から、2 組は 6/27　３限目から、いずれの組も 11/28 までの 8 コマはスポーツ実技です。

専門基礎分野

授業科目名	単位（時間数）	担当講師名	時 期
病態生理診断学	1単位（30）	山本　隆宣	2年次 後　期

【授業の概要および目標】診察や検査などによって得られる情報に基づいて患者の病態生理を正しく解釈する技術と正しい診断を行うためには、正確な情報収集とそれを解釈する知識と技術が必要である。正しい診断を行うための知識と技術を学ぶとともに得られた情報を整理統合し、分析できる"基礎的能力を身に付ける。

担当講師の実務経験	大学研究機関において講義関連分野の研究に従事する講師が担当する。

授業計画		授　業　内　容
回	時間	
1	2	1 病歴のとり方と現症の診察
2 3 4	6	2 記載法
5 6 7	6	3 検査 の選択と結果の解釈
8 9 10 11	8	4 問題解決のプロセス
12 13 14	6	5 臨床推論
15	2	終講試験／まとめ

【教科書・参考書・参考資料等】
系統看護学講座　臨床検査　医学書院

【評価の方法】
筆記試験

【学生へのコメント】　確認のため小テストを行います（成績評価の対象ではありません）。
病態生理学をしっかり理解しておいてください

専門基礎分野

授業科目名	単位（時間数）	担当講師名	時 期
関係法規	２単位（30）	前島　良弘	２年次 前　期

【授業の概要および目標】

保健・医療・福祉関係の法律の概要を学習し、国民の健康を守る立場である看護職に必要な法規について理解する。

授業計画		授　業　内　容
回	時間	
1	2	法の概念 法の基礎的理解及び最近問題となっている生命倫理にかかわる医療問題を考察する。
2	2	厚生労働行政のしくみ 医療の現場と、行政機関がどのように関係しているかを解明する。 保健師助産師看護師法 改正経過、厚労省の通達を踏まえて逐条解釈、法社会学的解釈をする。
3	2	医事法規 衛生法規の沿革及び分類を理解することで、今後の法改正に柔軟に対応できる能力をつける。
4	2	薬事法規
5 6	4	医療過誤 様々な医療事故・医療過誤事例を検討し、看護職に問われる可能性のある法的責任としての民事責任、刑事責任、行政責任、及び倫理観の問題としての道義的責任について考える。
7	2	看護職・看護学生にとっての基本法
8 9	4	保健衛生法規 地域保健、健康増進、母子保健、高齢者、精神障害者保健、学校保健 あらゆる対象に必要な保健衛生について理解する。
10	2	環境衛生法規
11	2	労働関係法規
12	2	看護に関連する社会資源の概説 社会保障制度、社会保険制度、公的扶助制度、社会福祉制度
13	2	国家試験対策①
14	2	国家試験対策②
15	2	終講試験／まとめ

【教科書・参考書、参考資料等】 前島　良弘『看護学生のための法規と社会保障制度（第３版）』ふくろう出版 厚生労働統計協会『国民衛生の動向・厚生の指標』厚生労働統計協会
【評価の方法】 筆記試験
【学生へのコメント】 ①法律は生きものです。日進月歩の医療技術と同様に、実態に即して有機的な理解を深めることを目標にします。 ②法律の学習は看護倫理観の醸成にもつながります。また、国家試験に直結する分野でもありますから、３年次になっても学習し続けてください。 ③毎回、重要な授業プリント及び資料を配布します。しっかりファイルしてください。 ④出席を重視し、欠課の場合の課題はレポート形式の課題を課します。 ⑤必要に応じて、単元別国家試験問題演習を行います。

専門基礎分野

授業科目名	単位（時間数）	担当講師名	時 期
社会福祉論	１単位（30）	林　安昭	２年次 前期・後期

【授業の概要および目標】

・社会福祉について、理念・制度および活動から総合的に理解する。
・看護と福祉の関係性を学び、他職種連携の実際を理解する。
・自身で感じたことや考えたことを言語化して他者に伝えることを通して、多様な意見を取り込みながら、授業内容を理解する。

授業計画		授　業　内　容
回	時間	
1	2	社会福祉とはなにか　ー身近な例からイメージする（グループワーク含む）
2	2	社会福祉、社会保障の動向
3	2	社会保障（社会保険）制度 （年金制度／医療保険）
4	2	社会保障（社会保険）制度 （雇用保険／労災保険）
5	2	子ども・家庭福祉
6	2	映画鑑賞（ワーク含む）
7	2	公的扶助（生活保護制度）
8	2	障害（児）者福祉
9	2	高齢者と福祉①（高齢者福祉の動向）
10	2	高齢者と福祉②（介護保険制度を中心に）
11	2	ソーシャルワークとその実践①（地域福祉の内容含む）
12	2	ソーシャルワークとその実践②
13	2	まとめ①
14	2	まとめ②
15	2	終講試験/まとめ

【教科書】

系統看護学講座　健康支援と社会保障制度　社会保障・社会福祉

【評価の方法】

筆記試験

専門基礎分野

授業科目名	単位（時間数）	担当講師名	時 期
公衆衛生学	1単位（15）	野村　佳香	2年次 前　期

【授業の概要および目標】

健康増進・疾病予防のための疫学的知識を学習する。また疾病構造の変化や高齢者の在宅医療の問題など、守備範囲が拡大しつつある公衆衛生活動についても理解する。

担当講師の実務経験	病院において看護師として従事している講師が担当する。

授業計画		授　業　内　容
回	時間	
1	2	公衆衛生とは　公衆衛生の活動対象 公衆衛生のしくみ
2	2	環境と健康
3	2	国際保健 集団の健康をとらえるための手法 - 疫学
4	4	地域保健 1.　母子保健 2.　成人保健 3.　高齢者保健 4.　精神保健 5.　歯科保健 6.　難病支援・障害支援 7.　感染症対策
5		
6	2	学校と健康 職場と健康
7	2	健康危機管理 災害保健
8	1	終講試験

【教科書、参考書、参考資料等】

神馬　征峰『系統看護学講座 専門基礎分野　健康支援と社会保障制度② 公衆衛生（第14版）』、医学書院、2019

【評価の方法】

筆記試験

専門基礎分野

授業科目名	単位（時間数）	担当講師名	時 期
レクレーション論 （アロマセラピー・音楽療法）	１単位（30）	城井　佳子	２年次 前期

【授業の概要および目標】

レクレーションを通して、人々の健康を養う。

レクレーションが健康にとって果たす意味を理解するとともに、主な代替療法のアロマセラピーと音楽療法を体験的に学ぶ。

授業計画		授　業　内　容
回	時間	
1	2	看護における代替療法を知る アロマセラピー概論：aroma therapy の健康における意味を知る アロマセラピー各論：精油の効果、精油の人体吸収と作用経路、精油に関する基礎知識、精油の使い方、成分分類と特性
2	2	精油の使い方 自分の好きな香りと苦手な香りを知る アレルギーテスト
3	2	手浴、足浴、吸入の実習①（実習室）
4	2	手浴、足浴、吸入の実習②（実習室）
5	2	オイルトリートメントについて オイルトリートメントをするにはどうしてキャリアオイルが必要なのか キャリアオイルについて
6	2	オイルトリートメントの実習①（自分自身を Care する）（実習室）
7	2	オイルトリートメントの実習②（患者さまに Care する）（実習室）
8	2	オイルトリートメントの実習③（患者さまに Care する）（実習室）
9	2	健康状態の恒常をはかる
10	2	ハンドトリートメントの実習（地域住民に Care 提供を含む）（実習室）
11	2	音楽療法概論（定義・歴史・作用）
12	2	音楽療法の対象と実践（精神疾患）
13	2	音楽療法の対象と実践（高齢者・認知症）
14	2	音楽療法の対象と実践（地域住民に演奏含む）
15	2	終講試験／まとめ

【教科書・参考書、参考資料等】 毎授業ごとに資料を配布
【評価の方法】 筆記試験
【学生へのコメント】 フロレンス・ナイチンゲールが「治癒はケアにあり」と記しているように、病気の回復には単に医療的介入だけでは不可能です。そのために、あらゆる技術を駆使しなければなりません。アロマセラピーや音楽療法はこれらの目的のための看護技術の一つと考えられます。アロマセラピーには、香りを嗅ぐということと、マッサージによる患者へのタッチングという基本的な看護技術の要素が含まれており、看護介入の一つとして、非常に有用です。 本講義はリラクゼーションやリフレッシュに役立てる基礎知識と実践できる能力を養い楽しく学ぶことができます。また、さまざまな健康状態にある対象をホリスティックにとらえ身体・精神の恒常をはかります。

専門分野

授業科目名	単位（時間数）	担当講師名	時 期
看護学概論Ⅱ （看護倫理・看護理論）	１単位（30）	山田 直子	２年次 前 期

【授業の概要および目標】

看護倫理の基礎的知識を学び、倫理的葛藤場面における判断能力を養う。

看護の理論を通して看護の本質と、看護実践のための理論的根拠を学習する。

担当講師の実務経験	病院において看護師として従事した経験のある講師が担当する。

授業計画		授 業 内 容
回	時間	
1	2	看護倫理とはなにか（１）意義 （２）歴史 （３）倫理の原理原則
2	2	看護倫理とはなにか （４）看護実践上の倫理的概念 （５）看護実践と倫理
3	2	専門職の倫理（１）専門職に求められる倫理
4	2	専門職の倫理（２）専門職の倫理綱領
5	2	専門職の倫理（３）看護業務基準と倫理実践 （４）保健師助産師看護師法と倫理
6	2	看護実践のための理論的問題の特徴
7 8	4	倫理的問題へのアプローチ
9 10	4	看護理論
11 12 13 14	8	事例分析
15	2	終講試験／まとめ

【教科書・参考書，参考資料等】

宮坂 道夫『系統看護学講座 別巻 看護倫理（第２版）』医学書院、2018

茂野 香おる『系統看護学講座 専門分野Ⅰ 看護学概論 基礎看護学①』医学書院、2018

【評価の方法】

レポート提出、筆記試験

専門分野

授業科目名	単位（時間数）	担当講師名	時 期
基礎看護学方法論Ⅶ （臨床実践）	1単位（30）	中田　恵美 金丸　宏枝 阪上　弥佐子	1年次 前期・後期

【授業の概要および目標】

患者の急性憎悪を含め様々な訴えに対して、看護学と医学の視点から包括的なアセスメントを行い、患者の生活を中心にした健康管理から看取りまでのプライマリケア看護に必要な検査、臨床判断治療の補助、治療の経過を主体的にかつ必要に応じて他職種と協働で実施できる基礎的な臨床実践能力を養う。

担当教員の実務経験	病院において看護師として従事した経験のある講師が担当する。

授業計画		授　業　内　容	担当
回	時間		
1	2	1 医療安全の確保	中田
2	2	2 安全確保対策の適用の判断と実施	
3	2	3 チーム医療に必要なコミュニケーション	
4	2	4 適切な感染管理に基づいた感染防止	
5	2	5 患者及び家族への説明と助言	
6	2	6 的確な看護判断と適切な看護技術の提供	
7	2	7 科学的根拠に基づいた看護技術の必要性の判断	金丸
8	2	8 看護技術の正確な方法の実施	
9	2	9 個別に応じた看護技術の選択と応用″	
10	2	10 安楽な方法での看護技術の実施	阪上
11	2	11 計画立案と実施したケアの正確な記録と評価	
12	6	12 臨床能力試験	
13			
14			
15	2	終講試験/まとめ	中田他

【教科書】

茂野　香おる『系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護技術Ⅰ 基礎看護学②（第17版）』医学書院、2019

リンダJ.カルペニート著　竹花富子訳『看護診断　ハンドブック』　医学書院

【評価の方法】

レポート提出、終講試験、臨床能力試験

【学生へのコメント】

講義の中で知識を習得し、思考過程を身につけましょう

専門分野

授業科目名	単位（時間数）	担当講師名	時期
地域看護学方法論Ⅰ （在宅看護技術）	２単位（30）	松井　由美子	２年次 前期・後期

【授業の概要および目標】

在宅看護の基本を踏まえ、在宅看護の対象者の日常生活行動の特徴とアセスメントの視点及び援助について知識と技術を修得する。また、在宅で終末期の対象者の特徴を理解し病状の経過に合わせた観察とアセスメントの視点を学び、援助について知識と技術を修得する。

担当講師の実務経験	訪問看護ステーションにおいて看護師として従事する講師が担当する。

授業計画		教育内容
回	時間	
1	2	訪問看護技術
2	2	在宅療養生活を支える基本的な技術① コミュニケーション・フィジカルアセスメント・生活リハビリテーション
3	2	在宅療養生活を支える基本的な技術② 環境整備・感染予防・ターミナルケア
4	2	日常生活を支える看護技術①　食事・呼吸・排泄・睡眠
5	2	日常生活を支える看護技術②　清潔、更衣・肢位保持、移動
6	4	【演習】在宅での洗髪
7		
8	2	療養を支える看護技術①　医療ケアの原則・薬物療法
9	2	療養を支える看護技術②　気管カニューレ管理
10	2	【演習】在宅酸素療法（ＨＯＴ）
11	2	療養を支える看護技術③　経管栄養法
12	2	療養を支える看護技術④　排泄ケア（ストーマ管理）
13	2	療養を支える看護技術⑤　褥瘡管理・疼痛管理
14	2	在宅療養における災害対策 在宅医療・訪問看護・地域包括ケアシステムによる対応
15	2	終講試験/まとめ

【教科書・参考書・参考資料等】

系統看護学講座 統合分野 在宅看護論

【評価の方法】

筆記試験

【学生へのコメント】

病院とは異なる場での看護の実際について知り、療養者と家族とその環境状況に応じた在宅看護の特異的なケアを具体的にイメージし、実施できるように学んでいきましょう。また、対象の個別性を考慮したアセスメントの視点も学んでいきましょう。

専門分野

授業科目名	単位（時間数）	担当講師名	時期
地域看護学方法論Ⅱ （事例展開）	１単位（30）	岡田万喜子(１組) 鎌田みどり(２組)	２年次 前期・後期

【授業の概要および目標】

在宅で療養するさまざまな事例から、療養者と家族、それらを取り巻く環境と状況に応じた看護の実際を学び、療養者とその家族が望む在宅療養生活を実現できるようにケアマネジメントの展開について考えることができる。

授業計画		教育内容
回	時間	
1	2	在宅看護過程展開のポイント　事例紹介　【ＧＷ担当決定】
2 3	4	看護過程の展開　事例分　【ＧＷ】
4	2	事例展開　対象全体像用紙　【ＧＷ分発表準備】
5	2	グループワーク発表
6	2	情報分析　全体像　【個人分展開】
7 8	4	ICF の概念図　【個人で作成】
9	2	問題リスト・看護計画　【個人で作成】
10	2	訪問時のマナー　【ＧＷ】
11	2	訪問時のマナー　【演習】
12	2	
13	2	
14	2	
15	2	訪問時のマナー　【振り返り発表】

【教科書】

系統看護学講座　地域・在宅看護論

【評価の方法】

演習・グループワークの参加状況、事例展開の提出

【学生へのコメント】

在宅で生活しながら療養している生活者として、さまざまな対象とその家族が望む在宅療養生活を実現するためのケアマネジメントの展開について、看護過程を通してグループワークで学んでいきましょう。また、訪問看護師として、必要な訪問時のマナーを身に付けられるよう演習を通して学んでいきましょう。

専門分野

授業科目名	単位（時間数）	担当講師名	時期
地域看護学方法論Ⅲ	2単位（45）	竹中　優子 大鍋　マキ(2組) 岡田　万貴子(1組)	2年次 前期・後期

【授業の概要および目標】

地域のおける生活と健康とそれを支えるケアを理解し、多職種と共に地域の人々の生活の質をまもるために、地域で生活する人々の暮らしや健康活動に関する意識を知る。また、看護の立場から地域全体を見る視点をもち、地域での看護活動も含め地域課題を考察し、自己の看護観を養う。

授業計画 回	授業計画 時間	教育内容	
1	2	アクティブエイジング論	竹中
2	2	地域住民へのインタビュー　【準備】	
3 4	4	地域住民へのインタビュー　【まとめとプレゼンテーションの準備】	
5 6	4	地域住民へのインタビュー　【発表】	
7	2	ヘルスプロモーション論	
8	2	学校教育と「保健室」	
9	2	地域で暮らす人々の「暮らし」の理解	大鍋 岡田
10 11	4	健康的なまち作り　まちの保健室での看護の必要性　【グループワーク】	
12 13 14 15	8	健康的なまち作り　まちの保健室での看護の実際　【フィールドワークと企画】	
16 17 18 19	8	健康的なまち作り　まちの保健室の実施　【演習】	
20 21	4	健康的なまち作り　まちの保健室を実施しての振り返り　【まとめと発表準備】	
22	2	健康的なまち作り　【発表】	
23	1	終講試験／まとめ	

【教科書】　系統看護学講座　地域・在宅看護論

【評価の方法】　演習・グループワークの参加状況、終講試験

【学生へのコメント】　地域住民へのインタビューを実施し、健康や健康維持への活動や考えなどを知ることで、地域の創生と地域文化の発展を踏まえ、健康課題、地域課題を考察し、必要とする看護活動についても考えていきましょう。また、他職種連携など社会資源の活用も併せて考えていきましょう。

専門分野Ⅱ

授業科目名	単位（時間数）	担当講師名	時 期
成人看護学方法論Ⅰ （生涯にわたり疾病コントロールが必要な人の看護）	１単位（30）	藤岡　浩美 寺下　千穂 加藤　みどり 田代　祐子	２年次 前　期

【授業の概要および目標】

慢性的な健康問題をもつ成人期の対象者を理解し、対象者が主体的に療養生活を送るために必要な看護援助を学習する。また代表的な慢性病をモデルにして、疾病や症状コントロールのために必要とされる対象者への指導方法について学習する。

担当講師の実務経験	病院において看護師として従事している講師が担当する。

授業計画		授　業　内　容	
回	時間		
1	2	慢性疾患を有する人とその家族への援助	藤岡
2	2	呼吸器障害をもつ患者の看護 慢性閉塞性肺疾患・肺結核	
3	2	気胸を持つ患者の看護（胸腔ドレナージ）	
4	2	肺癌ももつ患者の看護 気管切開術を受ける患者の看護	
5	2	循環機能障害をもつ患者の看護 症状に対する看護	寺下
6	2	心筋梗塞	
7	2	狭心症	
8	2	ペースメーカーを挿入する患者の看護	
9	2	代謝・内分泌機能障害をもつ患者の看護 糖尿病　痛風　メタボリック症候群　甲状腺機能障害	加藤
10	2	下垂体機能障害　副腎機能障害	
11	2	消化機能障害をもつ患者の看護 肝炎・肝硬変・胆石症・膵炎	田代
12	2		
13	2	消化機能障害をもつ患者の看護 潰瘍性大腸炎・クローン病	
14	2	地域の「食の健康相談会」に参加	
15	2	終講試験／まとめ	

【教科書・参考書、参考資料等】
川上　雅文『系統看護学講座　専門分野Ⅱ　成人看護学②　呼吸器（第 14 版）』医学書院 吉岡　成人『系統看護学講座　専門分野Ⅱ　成人看護学⑥　内分泌・代謝（第 14 版）』医学書院 松田　明子『系統看護学講座　専門分野Ⅱ　成人看護学⑤　消化器（第 14 版）』医学書院 小松　浩子『系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学総論 成人看護学①（第 15 版）』医学書院
【評価の方法】 終講試験

専門分野Ⅱ

授業科目名	単位（時間数）	担当講師名	時 期
成人看護学方法論Ⅱ （生体防御の低下、脳神経障害、体液調節障害、運動機能障害のある看護）	１単位（３０）	藤原　直子 山上　雅美 菅原　悠太 森　匡子	２年次 前　期

【授業の概要および目標】

病態生理学で学んだ知識をもとに、それぞれの健康障害の特徴および生活上の諸問題とセルフケア・マネジメントに向けた援助方法について学習し、健康回復に向けての看護を理解する。

担当講師の実務経験	病院において看護師として従事する講師が主に担当する。

授業計画		授　業　内　容	
回	時間		
1	2	生体防御と感染防御の基礎知識	藤原
2	2	感染症のある患者の看護	
3	2	血液・造血機能障害のある患者の看護	
4	2	免疫機能障害のある患者の看護	
5	2	脳神経機能障害のある患者の看護 脳腫瘍・脳梗塞・脳出血・くも膜下出血 VP シャント術を受ける患者の看護	山上
6	2		
7	2		
8	2		
9	2	体液調節機能障害のある患者の看護 腎不全・糸球体腎炎・ネフローゼ・腎癌・人工透析	菅原
10	2		
11	2	運動機能障害のある患者の看護 骨肉腫 手術（骨折・椎間板ヘルニア）を受ける患者の看護	森
12	2		
13	2		
14	2		
15	2	終講試験／まとめ	

【教科書・参考書、参考資料等】

岩田健太郎『系統看護学講座　専門分野Ⅱ　成人看護学⑪　アレルギー　膠原病　感染症（第 14 版）』医学書院

飯野　京子『系統看護学講座　専門分野Ⅱ　成人看護学④　血液・造血器（第 14 版）』医学書院

竹村　信彦『系統看護学講座　専門分野Ⅱ　成人看護学⑦　脳・神経（第 14 版）』医学書院

川邊　博史『系統看護学講座　専門分野Ⅱ　成人看護学⑧　腎・泌尿器（第 14 版）』医学書院

加藤　光寶『系統看護学講座　専門分野Ⅱ　成人看護学⑩　運動器（第 14 版）』医学書院

小松　浩子『系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学総論 成人看護学①（第 15 版）』医学書院

【評価の方法】

試験の結果

専門分野Ⅱ

授業科目名	単位（時間数）	担当講師名	時 期
成人看護学方法論Ⅲ （身体の一部を喪失した人の看護）	１単位（30）	海瀬　一也 森本　耕平	２年次 前　期

【授業の概要および目標】

リハビリテーションの理念を理解し、チームアプローチの意義、チームにおける看護の役割や機能を理解する。リハビリテーション看護を必要とする対象の状況を理解し、わが国におけるリハビリテーション看護の現状と今後の課題について理解する。また、発達段階や健康レベル、障害の種類からみた対象の特性と看護方法の特徴、及び精神科領域、地域におけるリハビリテーション看護を学習する。

担当講師の実務経験	病院において理学療法士として従事する講師と、看護師として従事する講師が担当する。

授業計画		授　業　内　容	
回	時間		
1	2	リハビリテーション全般について 多職種とのかかわり	海瀬
2	2	脳血管リハビリテーション	
3	2	運動器リハビリテーション	
4	2	呼吸・嚥下のリハビリテーション	
5	2	作業療法、言語聴覚療法について	
6	2	【演習】 トランスファー	
7	2	杖の合わせ方、使い方	
8	2	リハビリテーションの医療の提供 多職種連携	森本
9	2	リハビリテーション看護の対象、方法	
10	2	運動器系の障害とリハビリテーション看護	
11	2	中枢神経系の障害とリハビリテーション看護	
12	2	【演習】 他動的関節可動域運動、徒手筋力テスト（ＭＭＴ）	
13	2	呼吸器・循環器系の障害とリハビリテーション看護	
14	2	感覚器系の障害とリハビリテーション看護	
15	2	試験／まとめ	

【教科書・参考書、参考資料等】

武田　宜子『系統看護学講座　別巻　リハビリテーション看護（第６版）』医学書院

【評価の方法】

試験の結果

専門分野Ⅱ

授業科目名	単位（時間数）	担当講師名	時 期
成人看護学方法論Ⅳ （重症から終末期にある対象の看護）	１単位（30）	秋山　三絵子 稲原　まゆ子 小村　一左美	２年次 前　期

【授業の概要および目標】

様々な疾患により侵襲的治療や検査を受ける人とその家族を援助するために、生命の維持・回復に向けた看護の基礎的知識と看護支援方法について学習する。

更に緩和ケア（パリアティブ・ケア）、終末期（エンド・オブ・ライフ）ケアに関する諸概念・諸課題について学習し対象である人々への援助方法を考える。

担当講師の実務経験	病院および医療福祉施設において看護師として従事する講師が担当する。

授業計画		授　業　内　容	
回	時間		
1	2	周手術期にある人の理解 外科的侵襲から回復期の生体反応	秋山 稲原
2	2	手術侵襲に対する生体反応と合併症	
3	2	手術室における看護の役割	
4	2	起こりやすい術後合併症 呼吸器合併症予防（呼吸法、トライボール）	
5	2	ICU・HCU における患者の看護（術後ベッド）	
6	2	【演習】 輸液ポンプ・シリンジポンプ・ドレーン挿入中の体位変換・創傷処置	
7	2	【演習】 輸液ポンプ・シリンジポンプ・ドレーン挿入中の寝衣交換・離床への援助	
8	2		
9	2	緩和ケアにおける倫理的課題 意思決定支援	小村
10	2	非がん性疾患の緩和ケア	
11	2	がん性疾患の緩和ケア	
12	2	精神的ケア・社会的ケア	
13	2	【DVD 鑑賞】	
14	2	スピリチュアルケア・家族ケア	
15	2	試験／まとめ	

【教科書・参考書、参考資料等】 矢永　勝彦『系統看護学講座　別巻　臨床外科看護総論（第 11 版)』医学書院 恒藤　暁『系統看護学講座　別巻　緩和ケア（第 2 版)』医学書院 小松　浩子『系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学総論 成人看護学①（第 15 版)』医学書院
【評価の方法】 演習評価、レポート評価、試験の結果による総合評価

専門分野Ⅱ

授業科目名	単位（時間数）	担当講師名	時 期
成人看護学方法論Ⅴ （事例展開）	１単位（30）	吉本　理浦(２組) 菅原　悠太(１組)	２年次 前　期

【授業の概要および目標】

成人期の健康障害のある事例、健康障害のある事例に対して、看護理論を用いながら PBL チュートリアル教育法で看護過程を展開する。また各健康レベルにある対象への援助を提供する際に必要な基礎的看護技術について、その理論と実践方法を学習する。

担当講師の実務経験	病院において看護師として従事した経験のある講師が担当する。

授業計画		授　業　内　容
回	時間	
1	2	成人期に健康障害のある対象への事例展開（大腸癌） 看護過程の進め方、記録用紙の使用方法、記録方法 情報収集
2	2	情報収集
3	2	情報収集
4	2	情報分析
5	2	情報分析
6	2	情報分析
7	2	情報分析
8	2	関連図
9	2	関連図
10	2	関連図
11	2	問題リスト優先順位　看護計画
12	2	問題リスト優先順位　看護計画
13	2	追加・修正
14	2	追加・修正・SOAP の書き方
15	2	追加・修正・まとめ

【教科書・参考書、参考資料等】

矢永　勝彦『系統看護学講座　別巻　臨床外科看護総論（第 11 版）』医学書院

小松　浩子『系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学総論 成人看護学①（第 15 版）』医学書院

看護アセスメント協会「ゴードン看護診断マニュアル第 11 版」医学書院

【評価の方法】

看護過程の展開の記録、疾患、病態生理、検査など、授業態度及び取り組みによる総合評価

専門分野

授業科目名	単位（時間数）	担当講師名	時 期
老年看護学方法論Ⅰ （老年者の看護）	２単位（30）	小村　一左美 喜多　佳永子	２年次 前期・後期

【授業の概要および目標】

老年看護には、高齢者の特徴をふまえ高齢者の誰もができる限り健康的な生活ができ、その人らしい人生を送るために支援する役割が求められている。高齢者に特徴的な症候・疾患・障害について理解し、健康を支えるための看護の技法や様々な状態状況に応じた看護について学習する。

担当講師の実務経験	医療福祉施設において看護師として従事する講師と、歯科衛生士として従事する講師が担当する。

授業計画		授　業　内　容	
回	時間		
1	2	日常生活を支える基本活動	小村
2	4	食事・食生活・栄養ケア	
3			
4	2	排泄・排尿・排便のアセスメント	
5	2	高齢者の生活リズム	
6	2	コミュニケーション障害	
7	2	【演習】 コミュニケーション障害	
8	2	高齢者の口腔ケアのポイント	喜多
9	4	【演習】 口腔ケア	
10			
11	2	高齢者の検査、薬物療法、放射線療法・化学療法	小村
12	2	高齢者の手術療法と看護	
13	2	高齢者の退院支援	
14	2	介護福祉施設における看護 看護と介護の協働、他職種連携、チームアプローチ	
15	2	終講試験／まとめ	小村　喜多

【教科書・参考書・参考資料等】

北川　公子　系統看護学講座　老年看護学　医学書院

【参考書】

堀内　ふき『老年看護学②　高齢者看護の実践』メディカ出版

【評価の方法】

筆記試験

専門分野

授業科目名	単位（時間数）	担当講師名	時 期
老年看護学方法論Ⅱ （事例展開）	１単位（30）	秋吉久美代（１組） 松原希実子（２組）	２年次 前期・後期

【授業の概要および目標】

高齢者の健康障害の特徴を加齢や疾病、健康などの生活状況から理解し、老年期に起こりやすい健康問題についてアセスメントし、高齢者の日常生活や療養生活を支援するために必要な看護技術の理論と看護実践について学習する。

授業計画		授業計画
回	時間	
1	2	老年期に健康障害のある対象への事例展開（大腿骨頸部骨折）
2	2	情報とアセスメントの視点 　　高齢者の骨折と残存機能
3	2	関連図 　　生活状況、既往歴、加齢や疾病
4	2	問題リスト優先順位
5	2	看護計画の立案
6	2	大腿骨頸部骨折のある高齢者への事例展開（廃用症候群予防のための呼吸機能を高める援助） 　情報収集
7	2	情報分析
8	2	
9	2	関連図
10	2	
11	6	問題リスト優先順位 看護計画
12		
13		
14	2	実施・評価
15	2	まとめ／試験

【教科書・参考書・参考資料等】

北川　公子『系統看護学講座　専門分野Ⅱ　老年看護学』医学書院

看護診断ハンドブック　第 11 版　医学書院

【参考書】

山田　律子『生活機能から見た老年看護過程＋病態・生活機能関連図　第 3 版』医学書院、2017

【評価の方法】

課題提出

専門分野Ⅱ

授業科目名	単位（時間数）	担当講師名	時期
小児看護学概論	1単位（30）	片山　綾 畠山 亮夏・畠山織恵	2年次 前期

【授業の概要および目標】

小児看護の対象となる子どもの特性を理解し、小児看護の役割について学習する。特に現在の子どもと家族を取り巻く社会背景を理解し、子どもを通して家族の役割についても理解する。また、小児に生じやすい疾病及び障がいが、子どもと家族にどのような影響を与えるか学習する。

担当講師の実務経験	病院において看護師として従事した経験のある講師が担当する。

授業計画		授業内容	
回	時間		
1	2	小児看護の特徴と理念①	片山
2	2	小児看護の特徴と理念②	
3	2	子どもの成長・発達（小児看護に必要な理論）	
4	8	各発達段階について：乳児・幼児・学童・思春期・青年期 ＊身体生理と各機能の発達 ＊身体・運動・情緒機能と看護 ＊各期の子どもを取り巻く環境	
5			
6			
7			
8	2	子どもと家族を取り巻く社会 ＊現在家族の特徴 ＊小児・母子看護に関する法律 ＊予防接種 ＊虐待・しつけへの関わり	
9	2		
10	2		
11	2		
12	2	病気・障がいをもつ子どもと家族の援助①（動画）	
13	2	病気・障がいをもつ子どもと家族の援助②	畠山亮夏 畠山織恵
14	2	子どもの成長発達（まとめ）	片山
15	2	終講試験	

【教科書・参考書・参考資料など】

『系統看護学講座　専門分野Ⅱ　小児看護学①　小児看護学概論/小児臨床看護総論』医学書院

【評価の方法】

課題提出状況、授業態度及び試験の結果により総合的に判断する。

専門分野

授業科目名	単位（時間数）	担当講師名	時 期
小児看護学方法論Ⅰ （治療と看護）	1 単位（30）	野村佳香 盛光涼子	２年次 前期・後期

【授業の概要および目標】
病気や入院が子どもとその家族に与える影響とその看護について理解する。
小児期に特有の健康障害を病期別にとらえ、各病期にある子どもとその家族への看護の特徴について理解する。
病気の治療を受ける子どもを対象とした看護技術を習得する。

担当講師の実務経験	病院において看護師として従事する講師が担当する。

授業計画		授　業　内　容	担当
回	時間		
1	2	小児に行われることの多い検査や処置と看護師の役割､子どもの痛みの受け止め方、痛み表現方法、痛み客観的評価、疼痛軽減の援助	野村
2	2	緊急度の把握、救急処置が必要な子どもと家族への看護 乳幼児の意識レベルの判断小児に多い事故（誤飲、誤嚥、中毒、熱傷、溺水、交通事故、その他）と看護	
3	2	小児に多い症状（不機嫌、発熱、嘔吐、下痢、脱水、皮膚症状など）と看護	
4	2	先天的な問題を持つ児と家族への看護、先天異常の種類と特徴	
5	8	乳幼児期に多い疾患と看護 （肺炎・気管支炎・咽頭炎・その他の感染症各種・先天性心疾患・気管支喘息ヒルシュスプリング病・急性胃腸炎・腸内感染症・突発性血小板減少性紫斑病腸炎・腸重積・川崎病・膠原病・先天性股関節脱臼・上腕骨課上骨折・髄膜炎・麻痺・熱性けいれんなど虐待による症状その他）	盛光
6			野村
7			
8			
9	8	学童期に多い疾患と看護 （食物アレルギー・感染症各種・気管支喘息・てんかん・子宮体腎炎ネフローゼ症候群・アトピー性皮膚炎・紫斑病・白血病・悪性腫瘍、急性虫垂炎・Ⅰ型糖尿病・斜視その他）発達障害（LD・ADHD・アスペルガー・学習障害・自閉症など）を持つ児との関わり方、思春期生活習慣病予防について	盛光
10			
11			野村
12			
13	2	隔離が必要な子どもと家族の看護（感染症、易感染状態）	
14	2	食事制限が必要な子どもと家族の看護（ネフローゼ症候群、潰瘍性大腸炎など）在宅療法が必要な子どもと家族の看護（脳性麻痺、慢性腎炎、筋ジストロフィーなど）	
15	2	終講試験/まとめ	野村・盛光

【教科書・参考書・参考資料等】
奈良間美保　系統看護学講座　小児看護概論／小児臨床看護総論　医学書院

【評価の方法】
筆記試験

授業科目名	単位（時間数）	担当講師名	時期
小児看護学方法論Ⅱ	1単位（30）	濱口　かつら	2年次 後期

【授業の概要および目標】

小児期に代表的な健康問題を有する子どもとその家族を進退的・心理的・社会的側面から包括的に理解する。また、小児看護に必要な知識・発達段階における工夫などを活用し、健康教育やプレパレーションを実践し、小児看護学実習につなげる。

担当講師の実務経験	病院において看護師として従事した経験のある講師が担当する。

授業計画		授業内容
回	時間	
1	2	検査・処置を受ける子どもの看護
2	2	子どもの看護：バイタルサイン測定
3	2	子どもの看護：呼吸器症状の緩和
4	2	子どもの看護：処置やケアへの遊びの活用 /健康・安全教育グループワーク①
5	2	子どもの看護：注射・輸液管理
6	2	注射・輸液管理（演習）
7	2	健康・安全教育グループワーク②
8	2	演習：プレパレーション①（自己課題）
9	2	健康・安全教育発表①
10	2	健康・安全教育発表②
11	2	発表まとめ
12	2	子どもの看護：救命処置/子どもに多い事故
13	2	演習：プレパレーション②（グループワーク）
14	2	子どもの看護：　食事・排泄・清潔・衣生活
15	2	終講試験／まとめ

【教科書・参考書・参考資料など】

『系統看護学講座　専門分野Ⅱ　小児看護学①　小児看護学概論/小児臨床看護総論』医学書院

【評価の方法】

課題提出状況、授業態度及び試験の結果により総合的に判断する。

専門分野Ⅱ

授業科目名	単位（時間数）	担当講師名	時期
小児看護学方法論Ⅲ	1単位（30）	片山　綾（1組） 神藤　めぐみ（2組）	2年次 後期

【授業の概要および目標】

事例をふまえ看護過程を展開することにより、子どもの成長発達に応じた援助を学ぶとともに、小児看護学で学んだ知識の統合を図る。

担当講師の実務経験	病院において看護師として従事した経験のある講師が担当する。

授業計画		授業内容
回	時間	
1	2	子どものアセスメントの視点
2		事例紹介
3		事例をもとに看護過程を展開する　事例の分析
4		情報の分析　アセスメント
5		
6		
7		
8		関連図・看護診断
9		
10		看護診断　看護計画立案　全体像の把握
11		看護診断について GW　（問題リストと優先順位について）
12		症状別看護グループワーク
13		看護過程　症状別看護について、グループワークと発表
14		
15	2	提出　まとめ

【教科書・参考書・参考資料など】

奈良間　美保『系統看護学講座　専門分野Ⅱ　小児看護学①　小児看護学概論/小児臨床看護総論』医学書院

看護アセスメント協会「ゴードン看護診断マニュアル第11版」医学書院

【評価の方法】

課題提出状況、授業態度及び試験の結果により総合的に判断する。

看護過程課題：評価表に基づき、看護過程の事例展開（症状別看護含む）⇒100点満点

専門分野

授業科目名	単位（時間数）	担当講師名	時 期
母性看護学概論	１単位（30）	高祖　小百合	２年次 前期・後期

【授業の概要および目標】

女性の健康問題を身体的・精神的・社会的な観点から幅広く学習する。

現在の女性の状況を理解し、リプロダクティブヘルス・ライツの考え方をもとに今後の女性のヘルスサービスやエンパワーメントについて考える。具体的には、母子の健康状態の国際比較、女性の性と生殖にかかわる解剖・生理、女性のライフサイクル、母子の健康に関する法制度、生殖医療をめぐる倫理的問題等を取り上げ、女性と家族の健康支援に関する看護の役割を考える。

担当講師の実務経験	病院において看護師および助産師として従事した経験のある講師が担当する。

授業計画		授　業　内　容
回	時間	
1	2	母性看護の基盤となる概念 １．母性・父性・親性について　　２．母子関係の家族発達
2	2	リプロダクティブ・ヘルス／ライツ、セクシャリティ、ジェンダーについて ヘルスプロモーション
3	2	母性看護のあり方と倫理
4 5	4	母性看護の対象を取り巻く社会の変換と現状 １．母子保健統計の動向　　２．母性看護に関する法律と施策 ３．母子保健に関する施策　　４．母性看護の対象を取り巻く環境
6	2	母性看護の対象理解 １．女性のライフサイクルにおける形態・機能の変化 ２．女性のライフサイクルと家族
7	2	母性看護に必要な看護技術 １．母性看護における看護過程　　２．母性看護技術
8	2	女性のライフステージ各期における看護
9	2	思春期の健康と看護
10	2	成熟期の健康と看護
11	2	更年期の健康と看護
12	2	老年期の健康と看護
13 14	4	リプロダクティブ・ヘルスケア １．現代社会における母性の健康をめぐる課題 （家族計画・性感染症・HIV・人工妊娠中絶・喫煙・DV・児童虐待・国際化社会） ２．生殖医療の倫理的問題
15	2	終講試験／まとめ

【教科書・参考書、参考資料等】
森　恵美『系統看護学講座　専門分野Ⅱ　母性看護学①　母性看護学概論（第 13 版）』医学書院、2019 森　恵美『系統看護学講座　専門分野Ⅱ　母性看護学②　母性看護学各論（第 13 版）』医学書院、2019
【評価の方法】 レポート提出、筆記試験

専門分野

授業科目名	単位（時間数）	担当講師名	時 期
母性看護学方法論Ⅰ （周産期の看護）	１単位（30）	深津　起代子	２年次 前期

【授業の概要および目標】

女性のライフサイクルの一環となるマタニティサイクルにある女性とその家族を対象に、生理的・心理的・社会的特性を理解する。母性看護の特徴であるウェルネスの視点で、母子やその家族を支援する方法を理解し、正常からの逸脱時の援助を学習する。また高齢出産や核家族などの現代社会の問題も踏まえて、母性看護の援助方法について学習する。

担当講師の実務経験	病院において看護師及び助産師として従事した経験のある講師が担当する。

授業計画		授　業　内　容
回	時間	
1 2 3	6	妊娠期における看護 1. 妊娠期の身体的・心理的・社会的特性 2. 妊婦と胎児のアセスメント 3. 妊婦と家族の看護
4	2	妊娠の異常 1.妊娠の異常と看護
5 6 7	6	分娩期における看護 1. 分娩の要素と正常経過 2. 産婦・胎児の観察とアセスメント 3. 娩期の看護の実際
8	2	分娩の異常 1. 分娩の異常と看護
9 10	4	産褥期における看護 1. 産褥経過 2. 褥婦のアセスメント 3. 褥婦と家族の看護
11	2	産褥の異常 1. 産褥の異常と看護
12 13	4	新生児の看護 1. 新生児の生理 2. 新生児のアセスメント 3. 新生児の看護
14	2	新生児の異常 1. 新生児の異常と看護
15	2	終講試験／まとめ

【教科書】

森　恵美『系統看護学講座　専門分野Ⅱ　母性看護学　母性看護学各論（第 13 版)』医学書院、2018

【参考書】

荒木　奈緒他『ナーシンググラフィカ　母性看護学③　母性看護技術（第 4 版)』メディカ出版、2019

立岡　弓子『周産期ケアマニュアル　第 2 版』　サイオ出版　2014

武田　省　『分娩の仕組みと介助方』　メジカルビュー社　2016

中井　彰人　『CTG テキスト』　メディカ出版　2016

水野　克己　『よくわかる母乳保育』　ヘルス出版　2015

【評価の方法】筆記試験

専門分野

授業科目名	単位（時間数）	担当講師名	時 期
母性看護学方法論Ⅱ （母性援助技術）	1単位（30）	中川　里美	2年次 前期・後期

【授業の概要および目標】

母性看護に特有な看護技術の目的、援助方法を理解し、理論と結びつけた看護技術を習得できる。

母性臨地実習で母性看護技術を経験する機会が少ないため、学内でのシミュレーション教育やDVD視聴などによって理解していけるように授業をすすめる。

担当講師の実務経験	病院において看護師および助産師として従事した経験のある講師が担当する。

授業計画		授　業　内　容
回	時間	
1 2	4	オリエンテーション 【演習】妊婦の健康診査に必要な看護技術 計測（子宮底長・腹囲）　レオポルド触診法 胎児の発育・健康状態のアセスメント、　子宮底長、腹囲測定
3 4	4	【演習】 レオポルド触診法　妊婦体験 胎児心拍数計測・分娩監視装置（取り扱い、装着、判断）
5 6	4	【演習】新生児のフィジカルイグザミネーション 新生児のバイタルサイン測定　全身観察　反射　外表奇形　保温 新生児の諸計測　　抱き方・寝かせ方・衣服・おむつ交換
7 8	4	【演習】 調乳方法　ボトル授乳　排気　移送 1.2.3.4.5.6回までの未達成項目の実施
9 10	4	【演習】褥婦のフィジカルイグザミネーション 悪露交換　初回歩行　胎盤計測
11 12	4	【演習】 分娩シュミレーション（産痛緩和法　産婦の基本的ニーズのケア）
13 14	4	【演習】 新生児の沐浴
15	2	終講試験/まとめ

【教科書・参考書、参考資料等】

森　恵美『系統看護学講座　専門分野Ⅱ　母性看護学②　母性看護学各論（第13版）』医学書院、2019

荒木　奈緒他『ナーシンググラフィカ　母性看護学③　母性看護技術（第4版）』メディカ出版、2019

【評価の方法】

レポート提出、筆記試験

【学生へのコメント】

質問は適宜受け付けます

専門分野

授業科目名	単位（時間数）	担当講師名	時 期
母性看護学方法論Ⅲ （事例展開）	1単位（30）	高祖小百合（1組） 濱口　かつら（2組）	2年次 前期・後期

【授業の概要および目標】

女性は妊娠により胎児を子宮内に宿し、児を産み、非妊娠時の状態に復古させるという元来、生理的な変化を経験するが、疾患とは異なる。そのようなことから母性看護学領域の特徴であるウエルネス診断を用いる。

担当講師の実務経験	病院において看護師および助産師として従事した経験のある講師が担当する。

授業計画		授　業　内　容
回	時間	
1	2	母性看護における看護過程 ウエルネス診断の考え方
2	2	妊娠期の看護過程（講義）
3	2	【演習】妊娠期の看護過程　　事例展開：妊婦　（グループワーク）
4	2	【演習】事例展開：妊婦（グループワーク） 1．妊娠期の経過診断　2.妊娠期の健康生活診断 2．妊娠期の関連図作成
5	2	産婦の看護過程　分娩経過と看護（講義）
6	2	産褥期の看護過程（講義） 1．分娩期の経過診断 2．分娩期の健康生活診断
7	2	新生児の看護過程（講義）
8	2	【演習】産褥期、新生児期の看護過程を展開するうえで、必要な情報の収集
9	2	【演習】分析・解釈を実施し、診断指標に照らし合わせて診断をつける（グループワーク）
10	2	【演習】褥婦・新生児のマタニティ診断・全体の関連図作成・看護計画立案
11	2	【演習】保健指導案作成（グループワーク）
12	2	【演習】模擬保健指導の練習（グループワーク）
13	4	【演習】模擬保健指導実施　（グループワーク） ①　保健指導案にもとづいて、ロールプレイの実施 ②　実施した結果を評価する。
14		
15	2	終講試験/まとめ

【教科書・参考書、参考資料等】

森　恵美『系統看護学講座　専門分野Ⅱ　母性看護学　母性看護学概論（第13版）』医学書院、2019

日本助産診断・実践研究会『マタニティ診断ガイドブック（第5版）』医学書院、2016

【評価の方法】

レポート提出、筆記試験

専門分野Ⅱ

授業科目名	単位（時間数）	担当講師名	時 期
精神看護学方法論Ⅰ （治療と看護）	２単位（30）	中尾　公一他	２年次 前　期

【授業の概要および目標】
1. 精神看護の対象の理解と基本的支援を学ぶ。
2. おもな精神疾患・障害の特徴と症状別・経過別看護を学ぶ。
3. リエゾン看護、災害時の精神看護について学ぶ。
4. 精神看護おけるリスクマネージメントを理解する。

担当講師の実務経験	病院において看護師として従事している講師が担当する。

授業計画		授　業　内　容
回	時間	
1	2	こころの健康障害の治療① 薬物療法、心理療法、行動療法、社会療法
2	2	こころの健康障害の治療②
3	2	こころの健康障害の治療③
4	2	入院から退院までの経過とケア 1.急性期　　2.回復期　　3.寛解期　　4.慢性期
5	2	症状アセスメントとケアプラン 1. 幻覚、妄想の患者の看護 2. せん妄・混迷のある患者の看護 3. 自殺・自傷行為のある患者の看護 4. 依存症患者の看護
6	2	日常生活行動と精神の健康問題の対応 1. 不眠状態の患者の看護 2. 拒絶的な患者の看 3. 興奮状態の患者の看護 4. 不安状態の患者の看護 5. 攻撃的行動をとる患者の看護 6. 摂食障害の行動をとる患者の看護
7	2	精神看護のセイフティーマネージメント 1. リスクマネージメントとセイフティーマネージメント 2. 精神医療における医療事故 3. 安全対策
8	2	援助的人間関係 人間関係論、カウンセリング、コーチングスキル プロセスレコード、ロールプレイング
9	2	
10	2	【演習】 ロールプレイング
11	2	
12	2	患者理解とコミュニケーション技法 心の問題がコミュニケーションに与える影響
13	2	コミュニケーション技法

14	2	リエゾン看護と災害看護
15	2	終講試験/まとめ

【教科書・参考書・参考資料等】
末安　民生『系統看護学講座　別巻　精神保健福祉（第 3 版）』医学書院、2018
武井　麻子『系統看護学講座　専門分野Ⅱ　精神看護学①②　精神看護の基礎（第 5 版）』医学書院、2018

【評価の方法】
授業態度及び試験の結果による総合評価

専門分野

授業科目名	単位（時間数）	担当講師名	時 期
精神看護学方法論Ⅱ （事例展開）	1単位（30）	吉野　かほる	2年次 前期・後期

【授業の概要および目標】
・精神障害を持つ患者を総合的に理解し、看護実践するためのプロセスを理解する。
・プロセスレコードより自己洞察力を身に付ける。

担当講師の実務経験	病院において看護師として従事した経験のある講師が担当する。

授業計画		授　業　内　容
回	時間	
1	2	看護過程展開の技術 事例紹介　統合失調症の患者　情報提供　★事前学習レポート
2	2	情報の整理―フェイスシート記入方法
3	2	情報の整理―データベース記入方法（①～④）
4	2	情報の整理―データベース記入方法（⑤～⑪）
5	2	情報の分析から診断（①～④）
6	2	情報の分析から診断（⑤～⑪）
7	2	問題リストから看護計画立案
8	2	コミュニケーション技術―プロセスレコード　★レポート課題
9	2	コミュニケーション技術 社会生活技能訓練（SST）、認知行動療法を体験　★レポート課題
10	2	事例展開　①うつ病患者　②不安障害患者　情報提供 ★事前学習レポート
11	2	情報整理から分析（グループワーク）
12	2	グループ毎に発表・ディスカッション
13	2	関連図の書き方
14	2	関連図発表　グループ毎ディスカッション
15	2	終講試験／まとめ

【教科書・参考書・参考資料等】
末安　民生『系統看護学講座　別巻　精神保健福祉（第3版）』医学書院、2018
武井　麻子『系統看護学講座　専門分野Ⅱ　精神看護学①②　精神看護の基礎（第 5 版）』医学書院
看護アセスメント研究会『ゴードン看護診断マニュアル　原書第11版』医学書院、2018

【評価の方法】
レポート提出、終講試験

【学生へのコメント】

専門分野

授業科目名	単位（時間数）	担当講師名	時 期
看護の統合と実践Ⅱ (国際看護)	１単位（３０）	中村　直晶	２年次 前 期

【授業の概要および目標】国際的な視点から保健・看護の現状を学び、国際看護の概念国際看護の必要性を理解し国際的視野から看護専門職としての役割と連携について考える機会とする。
特に、国際看護の考え方と方法、発展途上国や在日外国人の健康上の問題点と対策、さらに国際協力とその実際について学習する。

担当講師の実務経験	病院において助産師として従事した経験のある講師が担当する。

授業計画		授　業　内　容
回	時間	
1	2	国際看護とは
2	2	国際看護の概念・歴史
3	2	国際看護活動と国際機関
4	2	国際協力の仕組み
5	2	国際救援におけるチーム医療
6	2	国際看護活動の実際
7	2	諸外国の医療・看護制度と政策
8	2	国際保健活動
9 １０ １１ １２ １３ １４	１２	学びの共有（グループワークと発表） ・プライマリ・ヘルスケア、ヘルスプロモーション、世界保健機関について ・5 歳未満児の死亡率上位 10 か国の保健統計、歴史、文化、社会システムなどについて ・ユニバーサル・ヘルス・カバレッジ、ミレニアム開発目標、持続可能な開発目標について
１５	2	終講試験/まとめ

【教科書・参考書、参考資料等】
医学書院 国際看護学入門

【評価の方法】
筆記試験、レポート提出

【学生へのコメント】

専門分野

授業科目名	単位（時間数）	担当講師名	時 期
看護の統合と実践Ⅲ （看護研究）	１単位（30）	野村　佳香	２年次 後　期

【授業の概要および目標】

看護現象を客観的に捉え、その中に存在する疑問あるいは問題を科学的に探求する能力を養う。
看護現象を探求するための看護研究方法論の基礎を学習する。
研究課題に関して、文献検索、整理・分析し、既に明らかになっていること、あるいはまだ研究されていない事を明確にし、看護研究方法論の基礎を学習する。

担当講師の実務経験	病院において看護師として従事している講師が担当する。

授業計画		授　業　内　容
回	時間	
1	2	看護研究とは（看護研究の意義）
2	2	看護研究のプロセス（研究テーマの決め方）
3	2	看護研究のプロセス（倫理的配慮、研究の進め方）
4	2	看護研究のプロセス（文献の集め方、読み方）
5	2	研究方法を考える
6	2	量的研究方法論・質的研究方法論
7	2	文献の引用方法と文献リストの書き方
8	2	情報処理室・図書館での文献検索
9	2	【演習】 研究計画書作成演習の進め方
10	2	
11	2	卒業研究発表会の準備
12	2	卒業研究発表会への参加
13	2	
14	2	看護研究における倫理的配慮
15	2	終講試験／まとめ

【教科書・参考書、参考資料等】

鎌倉やよい、深谷安子『看護学生のためのケース・スタディ（第 4 版）』メヂカルフレンド社、2018

【評価の方法】

レポート提出、筆記試験

【学生へのコメント】

基礎分野

授業科目名	単位（時間数）	担当講師名	時 期
論　理　学	１単位（30）	能川　元一	１年次 前　期

【授業の概要および目標】

論理学は、理論的・分析的な思考にかかわる科学である。

物事を論理的・客観的に捉える思考方法や誤解を招かない表現方法について学習する。

授業計画		授　業　内　容
回	時間	
1	2	なぜ論理を学ぶのか。演繹推理の基本的特徴。
2	2	三段論法：演繹推理の形式性
3	2	記号論理学概説（1）
4	2	記号論理学概説（2）
5	2	誤った前提、飛躍した推理
6	2	「逆は必ずしも真ならず」―対偶・逆・裏
7	2	「そして」と「しかし」―接続詞の使い方
8	2	理由を述べることの重要性
9	2	隠れた前提を明らかにする
10	2	否定をめぐる問題
11	2	仮説形成―創造的な思考（1）
12	2	アナロジーの功罪―創造的な思考（2）
13	2	「出来事を報告する」ためのポイント
14	2	「長い文章を要約する」ためのポイント
15	2	終講試験/まとめ

【教科書・参考書・参考資料等】

NHK『ロンリのちから』制作班、『イラスト・ストーリーで身につくロンリの力』三笠書房

【評価の方法】

筆記試験

【学生へのコメント】

論理学は科学的に考え、正確なコミュニケーションを行う上で重要な技術です。講義中に課す練習問題にも積極的に取り組んで下さい。

基礎分野

授業科目名	単位（時間数）	担当講師名	時 期
物 理 学	1単位（30）	新在家　隆征	1年次 前　期

【授業の概要および目標】

身近な器具や検査法、技術を例に取り上げながら、看護学と物理学の関わりを学び、物理学的原理の理解を深める。また、看護の非常事態にも論理的に考え解決する能力を身につける。

授業計画		授　業　内　容
回	時間	
1	2	物理学に用いる基本数学
2 3	4	移動動作に必要な力の加減 体位変換に役立つトルクの知識
4	2	安定・不安定 力学を人体に適用する
5	2	体液の産生と喪失のバランス
6	2	胃洗浄とサイフォン
7	2	圧力の基礎知識 動圧と静圧の関係性
8	2	低圧持続吸引装置の原理
9	2	酸素と圧力の関係およびその性質
10	2	点滴や輸血，経管栄養を行う際の液体の滴下速度
11 12	4	酸・アルカリと pH の関係
13 14	4	濃度の表し方と物質の溶け方
15	2	終講試験／まとめ

【教科書・参考書・参考資料等】

系統看護学講座　物理学　医学書院

【評価の方法】

筆記試験

基礎分野

授業科目名	単位（時間数）	担当講師名	時 期
生命科学	１単位（30）	清水　尚子	１年次 前　期

【授業の概要および目標】

高校生物で学習した基礎的な知識をより発展的に深めるため、知識が得られた時の背景や具体的な研究事例も含めて学習する。さらに、バイオテクノロジーを学習し、遺伝子診断、遺伝子治療および先端バイオ医療について理解する。高校生物からより発展的に生命現象を理解する能力を育成する。また、医療現場に導入されつつある先端バイオ技術に対応できるように、最新の細胞生物学や分子生物学を理解する。これらを通して、豊かな人間性を養い、柔軟性のある価値観を育成する。

授業計画		授　業　内　容
回	時間	
1	2	生物の特徴と細胞 【生命の起源、生物の系統、生物の分類、細胞構造、細胞内小器官】
2 3	4	生体を構成する分子 【水、タンパク質、糖質、脂質、核酸、ATP、酵素、エネルギー代謝】
4 5	4	ＤＮＡ【遺伝子、ＤＮＡ複製、ＤＮＡ損傷、ＤＮＡ修復、岡崎フラグメント、変異、組換え、染色体、ゲノム、エピジェネティックス、ゲノムインプリンティング】
6	2	ＲＮＡ【転写調節機構，原核生物と真核生物の遺伝子構造、転写、イントロン、エキソン、転写後修飾、スプライシング、翻訳、翻訳後修飾、ＲＮＡワールド】
7	2	細胞の分裂、増殖、死【細胞周期、減数分裂、アポトーシス、ネクローシス】
8	2	生殖、発生、分化
9 10 11	6	動物の組織・器官 ホルモンと生体調節【細胞間情報伝達，細胞内情報伝達】 神経系　【神経興奮の発生と伝達】
12	2	免疫
13	2	微生物と感染症
14	2	癌と老化【がん遺伝子】
15	2	終講試験/まとめ

【教科書・参考書，参考資料等】

系統看護学講座　生物学　医学書院

【評価の方法】

筆記試験

基礎分野

授業科目名	単位（時間数）	担当講師名	時 期
倫　理　学	１単位（30）	能川　元一	１年次 前　期

【授業の概要および目標】

倫理学とは、道徳や倫理の規範となる原理を探求する学問である。

「人間はどう産まれ、生き、死ぬべきか」を考えることで、生命の尊厳、人間の尊重、人間の基本的権利について理解する。

授業計画		授　業　内　容
回	時間	
1	2	倫理学の基礎（1）―功利主義
2	2	倫理学の基礎（2）―義務論
3	2	倫理学の基礎（3）―自由主義とパターナリズム
4	2	応用倫理学概説
5	2	環境倫理と世代間倫理
6	2	生命倫理の歴史と原則
7	2	終末期医療と倫理
8	2	先端医療と倫理
9	2	優生学・社会ダーウィニズムと医学の歴史（1）
10	2	優生学・社会ダーウィニズムと医学の歴史（2）
11	2	性と生殖に関わる倫理
12	2	研究倫理
13	2	ケアの倫理と正義の倫理：C・ギリガンの問題提起
14	2	看護倫理
15	2	終講試験/まとめ

【教科書】

宮坂 道夫　系統看護学講座　別巻　看護倫理　医学書院

【評価の方法】

筆記試験

【学生へのコメント】

倫理学とは守るべき規範や善い行いのリストを覚えることではなく、「なぜそのような規範があるのか」「その行いはなぜ善い（悪い）と言えるのか」を考える営みです。そのなかで蓄積されてきた知見を紹介します。

基礎分野

授業科目名	単位（時間数）	担当講師名	時 期
心　理　学	１単位（30）	金森　博之	１年次 後　期

【授業の概要および目標】

心理学全般の基礎知識をもとに人の心理に関する様々な考え方の理解、および自己理解、他者理解とともに看護場面における心理的援助について学ぶ。

授業計画		授　業　内　容
回	時間	
1	2	オリエンテーション　第１章　心理学とは、　第２章　感覚と知覚
2	2	第３章　記憶、　第４章　思考・言語・知能
3	2	第５章　学習、　第６章　感情と動機づけ
4	2	第８章　社会と集団
5	2	第７章　性格とパーソナリティ
6	2	第９章　発達（その１）
7	2	第９章　発達（その２）
8	2	第９章　発達（その３）
9	2	第１０章　心理臨床（その１）
10	2	第１０章　心理臨床（その２）
11	2	第１１章　医療・看護と心理（その１）
12	2	第１１章　医療・看護と心理（その２）
13	2	第１１章　医療・看護と心理（その３）
14	2	第１０章　心理臨床（その３）
15	2	終講試験

【教科書・参考資料等】

系統看護学講座　基礎分野　心理学　医学書院

その他必要に応じてプリント配布

【評価の方法】

筆記試験

【学生へのコメント】

積極的な授業への参加を求めます。

授業内容について変更がある時は、事前に授業内でお知らせします。

基礎分野

授業科目名	単位（時間数）	担当講師名	時 期
社 会 学	１単位（30）	佐野　光彦	１年次 前　期

【授業の概要および目標】

社会学は人と人とのかかわりや人間生活を支える社会の仕組みについて学ぶ学問である。この講義は現在世界中で問題となっている「少子高齢化」を大きなテーマに、この問題を生み出している原因について様々な側面から考えることによって、人と社会について関心を持ち、看護の場で出会う人や自分自身を取り巻く環境に関心の目を向ける姿勢を養う。

授業計画		授　業　内　容
回	時間	
1	2	社会科学とは何か？社会学とは何か？社会学を学ぶ意義
2	2	少子高齢化社会とは
3	2	QOL、幸福、満足とは
4	2	結婚
5	2	家族
6	2	ワーク・ライフ・バランス
7	2	ダブルケア～子育て・孫育てと介護
8	2	「サポート」とは
9	2	人のつながりと健康
10	2	地域で健康を支えること
11	8	地域や人々の生活について調べる～社会調査の方法と実践～
12		
13		
14		
15	2	終講試験／まとめ

【教科書】【参考書】

教科書は使用しません。参考図書は、講義中に提示します。

【評価の方法】

レポート提出、筆記試験

授業の進行状況、皆さんの興味関心によってはシラバスを変更する場合があります。

その際は、随時説明します。

基礎分野

授業科目名	単位（時間数）	担当講師名	時 期
スポーツ科学Ⅰ	１単位（15）	山本　隆宣	１年次 後　期

【授業の概要および目標】

現在、個人や社会において生活習慣病等における健康や運動・スポーツの持つ役割が注目されている。それらの現象や問題について学生が多角的な視点を持ち、生涯にわたって豊かな生活を営むための健康や運動・スポーツの科学的・文化的認識の形成や、実践することの重要性を学ぶ。

授業計画		授　業　内　容
回	時間	
1	2	現代社会の健康づくりの現状とスポーツ
2	2	人体の構造と身体活動
3	2	ストレス・環境とスポーツ
4	2	筋収縮の様式とスポーツトレーニング
5	2	生活習慣病と身体活動
6	2	食生活とスポーツ
7	2	スポーツと心理・認知機能
8	1	終講試験

【教科書・参考書，参考資料等】

教科書は使用せず資料を配布します。

【評価の方法】

筆記試験

【学生へのコメント】

生命科学と生理学の基礎的学習はスポーツ科学を理解するのに重要である。

専門基礎分野

授業科目名	単位（時間数）	担当講師名	時 期
解剖生理学Ⅰ（人体の構造）	１単位（15）	宮田　信吾	１年次 前　期

【授業の概要および目標】

人体を構成するさまざまなレベルを理解し、ヒトが生命を維持するのに必要な機能や恒常性について学習する。

担当講師の実務経験	大学研究機関において講義関連分野の研究に従事する講師が担当する。

授業計画		授　業　内　容
回	時間	
1	2	人体とは何か
2	2	骨格系
3	2	筋系
4	2	循環器系
5	2	呼吸器系・消化器系
6	2	泌尿器・生殖器・内分泌系
7	2	神経・感覚器系
8	1	終講試験/まとめ

【教科書・参考書，参考資料等】

系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能　解剖生理学

【評価の方法】

筆記試験

【学生へのコメント】

各章ごとに確認のため小テストを行います（成績評価の対象ではありません）。

専門基礎分野

授業科目名	単位（時間数）	担当講師名	時 期
解剖生理学Ⅱ （呼吸・循環・体温）	1単位（30）	宮田　信吾	1年次 前　期

【授業の概要および目標】

ヒトが生命活動を営むために行うガス交換、栄養や酸素の供給、老廃物の除去、熱の発生と放散などのメカニズムについて学習する。

担当講師の実務経験	大学研究機関において講義関連分野の研究に従事する講師が担当する。

授業計画		授　業　内　容
回	時間	
1	2	心臓
2	2	血管の構造と肺循環
3	2	
4	2	
5	2	全身の動脈と静脈
6	2	
7	2	
8	2	胎児の血液循環
9	2	リンパ系
10	2	血圧・脈拍
11	2	呼吸器の構造
12	2	肺の呼吸機能
13	2	
14	2	体温調節
15	2	終講試験／まとめ

【教科書・参考書・参考資料等】

系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能　解剖生理学

【評価の方法】

筆記試験

【学生へのコメント】

各章ごとに確認のため小テストを行います（成績評価の対象ではありません）。

専門基礎分野

授業科目名	単位（時間数）	担当講師名	時 期
解剖生理学Ⅲ（消化吸収）	1単位（30）	宮田　信吾	1年次 前期・後期

【授業の概要および目標】
人体が正常な活動を行うために栄養が必要である。食物の消化・吸収および代謝、老廃物の排泄を行う器官の構造や機能を学習する。

担当講師の実務経験	大学研究機関にて講義関連分野の研究に従事する講師が担当する。

授業計画		授　業　内　容
回	時間	
1	2	口、咽頭、食道
2	2	
3	2	腹部消化管
4	2	肝臓、胆嚢、膵臓
5	2	
6	2	
7	2	口腔、食道の作用
8	2	胃、小腸、大腸の作用
9	2	
10	2	肝臓、胆嚢、膵臓の作用
11	2	
12	2	栄養と代謝
13	2	
14	2	
15	2	終講試験／まとめ

【教科書・参考書・参考資料等】
系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能　解剖生理学

【評価の方法】
筆記試験

【学生へのコメント】
各章ごとに確認のため小テストを行います（成績評価の対象ではありません）。

専門基礎分野

授業科目名	単位（時間数）	担当講師名	時 期
解剖生理学Ⅳ（人体の恒常性）	１単位（30）	宮田　信吾	１年次 後　期

【授業の概要および目標】

人体は環境の変化に対してさまざまな調節機能により、恒常性を保っている。その最小単位である細胞および内分泌体液、腎泌尿器などの構造や機能について学習する。

担当講師の実務経験	大学研究機関にて講義関連分野の研究に従事する講師が担当する。

授業計画		授　業　内　容
回	時間	
1	2	細胞の機能
2	2	血液・間質液・リンパ
3	2	
4	2	生体の防御機構
5	2	泌尿器系
6	2	
7	2	内分泌系
8	2	
9	2	
10	2	体液と電解質
11	2	
12	2	腎のはたらきと尿
13	2	生殖器系
14	2	人体の発生
15	2	終講試験／まとめ

【教科書・参考書・参考資料等】

系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能［1］解剖生理学

【評価の方法】

筆記試験

【学生へのコメント】

各章ごとに確認のため小テストを行います（成績評価の対象ではありません）。

専門基礎分野

授業科目名	単位（時間数）	担当講師名	時 期
解剖生理学Ⅴ （脳神経・感覚器）	１単位（30）	石野　雄吾	１年次 後　期

【授業の概要および目標】

ヒトは生命を維持するために外部環境の変化を感受したり情報の伝達を行っている。

その役割を担っている感覚器系と神経系の構造と機能について学習する。

担当講師の実務経験	大学研究機関において講義関連分野の研究に従事する講師が担当する。

授業計画		授　業　内　容
回	時間	
1	2	神経系のしくみ
2	2	神経組織
3	2	
4	2	中枢神経系
5	2	
6	2	末梢神経系
7	2	
8	2	感覚の種類
9	2	視覚
10	2	
11	2	聴覚と平衡覚
12	2	
13	2	臭覚と味覚
14	2	皮膚感覚
15	2	終講試験／まとめ

【教科書・参考書・参考資料等】

系統看護学講座　専門基礎分野　人体の構造と機能　解剖生理学

【評価の方法】

筆記試験

【学生へのコメント】

各章ごとに確認のため小テストを行います（成績評価の対象ではありません）。

専門基礎分野

授業科目名	単位（時間数）	担当講師名	時 期
生　化　学	１単位（30）	水口　博之	１年次 前　期

【授業の概要および目標】

私達の体がどのような物質から成り立っているのか、それらがどのように食物から取り入れられ、作られ、分解され、調節されて生命を維持しているのかを学ぶ。生化学は病気を理解する上で重要な基礎となる知識である。

担当講師の実務経験	大学研究機関において講義関連科目の研究に従事する講師が担当する。

授業計画		授　業　内　容
回	時間	
1	2	生化学とはどういう学問か。化学の基礎知識 細胞の構造と機能
2	2	糖質・脂質
3	2	アミノ酸とタンパク質・酵素
4	2	核酸・ヌクレオチドとその代謝、水と無機質
5	4	生体エネルギーと糖質代謝
6		
7	2	ビタミン
8	2	脂質代謝
9	2	タンパク質とアミノ酸の代謝、ポルフィリンの代謝
10	2	エネルギー代謝の統合と制御
11	2	核酸代謝・遺伝情報
12	2	先天性代謝異常
13	2	代謝異常と疾患：糖尿病、脂質代謝異常など
14	2	総復習・生化学関連の国家試験問題解説
15	2	終講試験／まとめ

【教科書・参考書・参考資料等】

系統看護学講座　専門基礎分野　生化学　医学書院

【評価の方法】

筆記試験

【学生へのコメント】

生化学は生体機能の基礎を理解するための学問です。

基礎知識として、中学の理科（生物と化学）を本やネットなどで各自復習した上で講義に臨んで下さい。

専門基礎分野

授業科目名	単位（時間数）	担当講師名	時 期
栄　養　学	１単位（30）	伊藤　初子	１年次 前　期

【授業の概要および目標】
食と健康とのかかわりの中で栄養素の種類や体内での役割と代謝、1 日の摂取量について学習する。また食生活上の問題を考えることで、生活習慣病との関係を理解する。

担当講師の実務経験	医療・福祉機関において管理栄養士として従事する講師が担当する。

授業計画 回	授業計画 時間	授 業 内 容
1	2	臨床栄養学の基礎知識　　栄養とは
2	2	食品成分とエネルギー
3	2	食事摂取基準
4	2	栄養アセスメントと栄養所要量
5 6	4	日常生活と栄養 人生各期における健康生活と栄養
7 8 9	6	療養生活と栄養 1. 検査のための食事 2. 治療による回復を促すための食事 3. 栄養成分別のコントロール食 4. 嚥下障害のある人のための食事 5. 経口摂取できない患者のための栄養管理
10 11 12 13	8	疾患別の食事療法 1. 消化・吸収、各臓器の働き 2. 消化器系疾患の食事療法 3. 内分泌・代謝疾患の食事療法 4. 循環器系疾患の食事療法 5. 腎疾患の食事療法
14	2	食事指導の実際
15	2	終講試験／まとめ

【教科書・参考書、参考資料等】
系統看護学講座　専門基礎分野　栄養学

【評価の方法】
筆記試験

【学生へのコメント】
「栄養」は身体の変化や病気などと密接に関係しています。様々な視点から食事・栄養の事を学んでいくと理解がより深まり、臨床現場で役立つものになると思います。必要な知識を楽しく習得していきましょう。

専門基礎分野

授業科目名	単位（時間数）	担当講師名	時 期
薬　理　学	１単位（30）	水口　博之	１年次 前　期

【授業の概要および目標】

薬物の生体に対する作用を理解し、疾病の薬物療法の基本を学習する。

担当講師の実務経験	大学研究機関において講義関連分野の研究に従事する講師が担当する。

授業計画		授　業　内　容
回	時間	
1	2	薬・医療の歴史　　アスピリンの歴史から薬の医学に於ける役割を理解する。
2	2	末梢での神経活動に作用する薬物（教科書第５章）
3	2	自律神経系を刺激、遮断する薬物、薬理学総論（教科書第１章）
4	2	薬物の体内動態、薬と法律、投与量の計算
5	2	中枢神経系に作用する薬物（教科書第６章）
6	2	抗精神病薬（統合失調症、うつ病など）
7	2	血液に作用する薬物、体液の調節および腎臓
8	2	心臓・血管系に作用する薬物（教科書第７章）
9	2	心不全、虚血性心疾患（狭心症、心筋梗塞など）
10	2	炎症と抗炎症薬（教科書第４章）
11	2	免疫・抗感染症薬（教科書第３章）
12	2	抗がん薬（教科書第２章）、がん性疼痛に使用する薬物
13	2	代謝異常：糖尿病、脂質異常症、痛風などの生活習慣病治療薬）
14	2	消化器、内分泌系等に作用する薬物
15	2	終講試験/まとめ

【教科書・参考書・参考資料等】

系統看護学講座　専門基礎分野　薬理学　医学書院

【評価の方法】

筆記試験

【学生へのコメント】

生体の機能が解からなければ、薬物の作用を理解することは不可能。

解剖、生理学をよく学んでください。

専門基礎分野

授業科目名	単位（時間数）	担当講師名	時 期
微生物学	1単位（30）	金子　幸弘 柴多　渉	1年次 前　期

【授業の概要および目標】

微生物の基本的性状、病原性とそれによって生じる病態として感染症を理解する。
さらに感染症の発生動向、行政対応、治療および予防介入について学習する。

担当講師の実務経験	病院において医師として従事する講師が担当する。

授業計画		授　業　内　容	
回	時間		
1	2	微生物学総論	金子
2	2	細菌学各論：グラム陽性球菌、グラム陰性球菌	
3	2	細菌学各論：緑膿菌～ボルデテラ、マイコプラズマ、リケッチア クラミジア	
4	2	細菌学各論：ヘモフィルス、スピロヘータ	
5	2	ウイルス学	
6	2	真菌・寄生虫	
7	2	感染症総論：生体防御、検査、治療、予防（ワクチン）	
8	2	感染症各論：呼吸器感染症、中枢神経感染症、菌血症・敗血症	
9	2	感染症各論：性感染症、尿路感染症、動物由来感染症、その他	
10	2	感染症総論：薬剤耐性菌、感染対策・感染症法	
11	2	臨床への応用；感染症の診断・感染対策	柴多
12	2	臨床への応用；感染症の治療	
13	2	看護師国家試験と微生物学・感染症学①	
14	2	看護師国家試験と微生物学・感染症学②	
15	2	終講試験／まとめ	金子　柴多

【教科書】

系統看護学講座　微生物学　医学書院

【評価の方法】

筆記試験

専門基礎分野

授業科目名	単位（時間数）	担当講師名	時 期
病態生理学総論	1 単位（15）	柴多　渉	1 年次 前期・後期

【授業の概要および目標】

病気の原因や経過、とくに病気による形態的・機能的変化の正確な知識を学習する。
またそのことから的確な看護援助について考察する。

担当講師の実務経験	大学研究機関において講義関連分野の研究に従事する講師が担当する。

授業計画		授　業　内　容
回	時間	
1	2	病態生理学とは
2	2	先天異常・代謝障害
3	2	循環障害
4	2	腫瘍
5	2	感染症
6	2	老化と認知症
7	2	炎症と免疫・アレルギー
8	1	終講試験

【教科書・参考書・参考資料等】

系統看護学講座　専門基礎分野　病態生理学

【評価の方法】

筆記試験

【学生へのコメント】

生体の構造・機能をよく理解していないと、病因の成立機構・身体機能の異常を十分理解できません。解剖生理学をよく勉強しておいてください。

専門基礎分野

授業科目名	単位（時間数）	担当講師名	時 期
病態生理学Ⅰ （呼吸器・循環器・血液・腎泌尿器）	２単位（45）	宮野　章 大垣　孝雄 甲斐　俊朗 小畑　俊男	１年次 前期・後期

【授業の概要および目標】

呼吸・循環・血液・腎泌尿器系の解剖生理学的知識をもとに、主要症状と疾患を理解し、有効な治療法とその看護について考察する。

担当講師の実務経験	医療研究機関において講義関連分野の研究に従事する講師と、所属機関において臨床検査技師として従事する講師が担当する。

授業計画		授　業　内　容	
回	時間		
1 2 3 4 5 6	12	呼吸器系 各主要症状と病態生理、検査、各主要疾患、治療・処置 慢性閉塞性肺疾患、肺癌、肺結核、肺炎 気管支喘息、自然気胸、呼吸不全 過換気症候群、睡眠時無呼吸症候群	宮野
7 8 9 10 11 12 13	14	循環器系 各主要症状と病態生理、検査、各主要疾患、治療・処置 心筋梗塞、狭心症、心不全、血圧異常（高血圧・低血圧） 不整脈、弁膜症、心膜炎、心筋症、肺性心 動脈系疾患、静脈系疾患	大垣
14 15 16	6	血液・造血器系 各主要症状と病態生理、検査、各主要疾患、治療・処置 リンパ系疾患、赤血球系の異常（貧血各種） 白血球系の異常（無顆粒球症） 造血器腫瘍（白血病、悪性リンパ腫、骨髄腫） 出血性疾患（血管異常、血小板異常、凝固異常、DIC）	甲斐
17 18 19 20 21 22	12	腎泌尿器系 各主要症状と病態生理、検査、各主要疾患、治療・処置 膀胱炎、腎不全、慢性腎臓病、ネフローゼ症候群 糸球体腎炎、水腎症、前立腺肥大症 尿路結石症、尿路・性器の腫瘍　（腎癌、前立腺癌） 男性生殖器疾患	小畑
23	1	終講試験	宮野　大垣 甲斐　小畑

【教科書・参考書，参考資料等】

川村　雅文　系統看護学講座　呼吸器　医学書院

松田　直樹　系統看護学講座　循環器　医学書院

飯野　京子　系統看護学講座　血液・造血器　医学書院

伊藤　由恵　系統看護学講座　腎・泌尿器　医学書院

【評価の方法】

筆記試験

【学生へのコメント】

生体の構造・機能をよく理解していないと、病因の成立機構・身体機能の異常を十分理解できないので、解剖生理学をよく勉強しておいてください。

専門基礎分野

授業科目名	単位（時間数）	担当講師名	時 期
病態生理学Ⅱ （消化器・内分泌・代謝・免疫）	１単位（30）	田中　伸生 菅　和臣 矢田　豊 宮﨑　純一 大垣　孝雄	１年次 前期・後期

【授業の概要および目標】

消化・内分泌・代謝・免疫系の生理学的知識をもとに主要症状と疾患を理解し、有効な治療法とその看護について考察する。

担当講師の実務経験	病院において医師として従事する講師と、所属機関において臨床検査技師として従事する講師が担当する。

授業計画		授　業　内　容	
回	時間		
1 2 3 4 5 6	12	消化器系の疾患 各主要症状と病態生理、検査、各主要疾患、治療・処置 胃潰瘍、十二指腸炎、胆嚢炎、胆管炎、胆石症 膵炎、肝脂肪、肝硬変、肝炎 食道癌、胃癌、膵臓癌、肝癌、小腸癌、大腸癌	田中 菅 矢田 宮﨑
7 8 9 10 11	10	内分泌・代謝系の疾患 各主要症状と病態生理、検査、各主要疾患、治療・処置 甲状腺疾患、副甲状腺疾患、副腎疾患 性腺疾患、膵・消化管神経内分泌腫瘍 糖尿病、脂質異常症、尿酸代謝異常	大垣
12 13 14	6	免疫系の疾患 各主要症状と病態生理、検査、各主要疾患、治療・処置 関節リウマチ、全身性エリテマトーデス、膠原病	
15	2	終講試験／まとめ	田中　矢田 宮﨑　大垣

【教科書】

南川　雅子　系統看護学講座　医学書院

黒江ゆり子　系統看護学講座　内分泌・代謝　成人看護学　医学書院

岩田健太郎　系統看護学講座　アレルギー・膠原病・感染症　医学書院

【評価の方法】

筆記試験

【学生へのコメント】

生体の構造・機能をよく理解していないと、病因の成立機構・身体機能の異常を十分理解できないので、解剖生理学をよく勉強しておいてください。

専門基礎分野

授業科目名	単位（時間数）	担当講師名	時 期
病態生理学Ⅲ （脳神経・運動・感覚器）	１単位（30）	三木　哲郎 藤田　敏晃 高見　勝次 金　　光成 森本　絹子 小畑 俊男 忽那　晴央	１年次 前期・後期

【授業の概要および目標】

脳神経・運動・感覚器系の解剖生理的知識をもとに主要症状と疾患を理解し、有効な治療法とその看護について考察する。

担当講師の実務経験	病院において医師として従事する講師が担当する。

授業計画		授　業　内　容	
回	時間		
1 2 3 4 5 6	１２	脳神経・認知症 各主要症状と病態生理、検査、各主要疾患、治療・処置 クモ膜下出血、脳内出血、脳梗塞、脳腫瘍、脳虚血発作 パーキンソン病、筋ジストロフィー 脳炎、髄膜炎、	三木 藤田
7 8 9 10 11	１０	運動器系 各主要症状と病態生理、検査、各主要疾患、治療・処置 大腿骨頸部骨折、圧迫骨折肩関節脱臼、股関節脱臼、 捻挫・打撲、骨・関節の炎症性疾患、脊椎損傷、変形性関節症、脊柱管狭窄症、骨腫瘍	高見 金
12 13 14	6	感覚器系 各主要症状と病態生理、検査、各主要疾患、治療・処置 眼疾患（結膜炎、白内障、緑内障、網膜症） 耳鼻咽喉科疾患（メニエール病、難聴、副鼻腔炎） 皮膚疾患（熱傷、紅斑症、水泡症、皮膚癌）	森本 小畑 忽那
15	2	終講試験／まとめ	三木　藤田 高見　金 森本　小畑 忽那

【教科書】

系統看護学講座　脳神経　医学書院
系統看護学講座　運動器　医学書院
系統看護学講座　眼　医学書院
系統看護学講座　耳鼻咽喉　医学書院
系統看護学講座　皮膚　医学書院

【評価の方法】

筆記試験

【学生へのコメント】

生体の構造・機能をよく理解していないと、病因の成立機構・身体機能の異常を十分理解できないので、解剖生理学をよく勉強しておいてください。

専門基礎分野

授業科目名	単位（時間数）	担当講師名	時 期
病態生理学Ⅳ （小児・精神・女性生殖）	１単位（30）	田中奈絵子 井上雄一朗 横山　信喜	１年次 前期・後期

【授業の概要および目標】

解剖生理学的知識をもとに小児・精神・女性生殖器系における主要症状と疾患を理解し、有効な治療法とその看護について考察する。

担当講師の実務経験	病院において医師として従事する講師が担当する。

授業計画		授　業　内　容	
回	時間		
1 2 3 4	8	小児 各主要症状と病態生理、検査、各主要疾患、治療・処置 肺炎、気管支炎、麻疹、風疹、水痘、流行性耳下腺炎 その他の感染症各種、気管支喘息、アレルギー、ヒルシュスプリング病、急性胃腸炎、腸炎、腸重積、先天性心疾患、川崎病、Ⅰ型糖尿病、突発性血小板減少紫斑病、白血病、悪性腫瘍発達障害	田中奈
5 6 7 8 9	１０	精神 気分障害、統合失調症、依存症、 心的外傷後ストレス障害、認知症	井上
10 11 12 13 14	１０	女性生殖器系 各主要症状と病態生理、検査、各主要疾患、治療・処置 ・子宮、卵巣の腫瘍 ・更年期障害、月経異常 ・不妊症、骨盤臓器脱	横山
15	2	終講試験／まとめ	吉岡　井上　横山

【教科書】

系統看護学講座　小児臨床看護各論　医学書院

系統看護学講座　精神看護の展開　医学書院

系統看護学講座　女性生殖器　医学書院

【評価の方法】

筆記試験

【学生へのコメント】

生体の構造・機能をよく理解していないと、病因の成立機構・身体機能の異常を十分理解できないので、解剖生理学をよく勉強しておいてください。

専門基礎分野

授業科目名	単位（時間数）	担当講師名	時 期
総合医療論	１単位（30）	柴多　渉	１年次 前期・後期

【授業の概要および目標】
現代の保健・医療・福祉の現状とその問題を理解し、看護職として人々の健康の維持・増進に貢献できる能力を養う。

担当講師の実務経験	大学研究機関において講義関連分野の研究に従事する講師が担当する。

授業計画		授　業　内　容
回	時間	
1	2	医療と看護の原点―病と癒し
2	2	医療の歩みと医療観の変遷
3	2	私たちの生活と健康
4	2	科学技術の進歩
5	2	現代医療の最前線
6	2	現代医療の新たな課題
7	2	保健・医療・福祉の潮流
8	2	多職種連携の歴史
9	2	多職種連携の要素
１０	2	多職種連携を支える職種
１１	2	多職種連携実践のための各専門職の能力
１２	2	ケアの実践から学ぶ多職種連携
１３	2	ケアの実践から学ぶ多職種連携の課題
１４	2	多職種連携の実際:グループワーク
１５	2	終講試験/まとめ

【教科書・参考書・参考資料等】
系統看護講座　別巻　総合医療論　医学書院

【評価の方法】
筆記試験

【学生へのコメント】
医療従事者に求められる倫理性や社会的使命を習得するために、『国民衛生の動向』（厚生労働省統計協会）の読書を勧める。また、社会について理解を深める。

専門分野

授業科目名	単位（時間数）	担当講師名	時 期
看護学概論Ⅰ	１単位（30）	山田直子	１年次 前　期

【授業の概要および目標】

看護の基本概念、本質、ヘルスケアにおける看護の役割、専門性をその発展過程をふまえて理解し、看護の機能・構造を学習する。

担当講師の実務経験	病院において看護師として従事した経験のある講師が担当する。

授業計画		授　業　内　容
回	時間	
1	2	看護の発展の歴史と看護の概念の変遷、現在の看護の定義、考え方（１） 看護の発展の歴史をナイチンゲールの功績とそれ以後の近代看護の変化をたどり、理解する
2	2	現在の看護の定義、考え方（２） 看護とは何かを看護理論家、ＩＣＮ、ＡＮＡ、日本看護協会が提示している看護の定義から考える。
3	2	看護の役割と機能
4	2	看護の継続性と情報共有
5	2	看護の対象としての人間の理解（１）　人間の「こころ」と「からだ」
6	2	看護の対象としての人間の理解（２）　生涯発達しつづける存在としての人間
7	2	看護の対象としての人間の理解（３）　人間の「暮らし」の理解
8	2	生活者の健康（１）生活者の健康の定義
9	2	生活者の健康（２）生活者の健康のための看護のあり方
10	2	看護の提供者（１）職業としての看護
11	2	看護の提供者（２）看護職の資格と養成にかかわる制度
12	2	看護の提供者（３）看護職者の就業状況と養成制度の課題
13	2	看護の提供のしくみ（１）看護サービスについての理解
14	2	看護の提供のしくみ（２）看護サービスの提供の場と管理
15	2	終講試験／まとめ

【教科書】

茂野 香おる『系統看護学講座 看護学概論 基礎看護学①』医学書院

フロレンス・ナイチンゲール著 湯槇 ます訳『看護覚え書-看護であること看護でないこと-（改訳第７版）』現代社、2018

ヴァージニア・ヘンダーソン著 湯槇　ます訳『看護の基本となるもの（再新装版）』日本看護協会出版会、2018

【評価の方法】

筆記試験

専門分野

授業科目名	単位（時間数）	担当講師名	時 期
基礎看護学方法論Ⅰ （ヒューマンケアの基本技術）	1単位（30）	神藤　めぐみ 松原　希実子 中田　恵美 阪上　弥佐子	1年次 前　期

【授業の概要および目標】

・看護技術とは何か、技術の特徴について理解する。

・人間関係を構築するための基本的コミュニケーション技術について理解する。

・看護おける学習支援の目的と意義を理解する。

担当講師の実務経験	病院において看護師として従事した経験のある講師が担当する。

授業計画 回	授業計画 時間	授　業　内　容	担当者
1	2	1.看護技術とは何か　看護技術の特徴　　看護技術の範囲 看護技術を適切に実践するための要素　　看護技術の発展と修得のため	神藤
2	2	2.コミュニケーションの意義と目的 コミュニケーションとは 医療におけるコミュニケーション	
3 4	4	3.コミュニケーションの構成要素と成立過程 コミュニケーション手段、構成要素と成立過程 看護専門職としての応答能力　リフレクション （プロセスレコード）	
5 6	4	4.関係構築のためのコミュニケーションの基本 接近的コミュニケーションの原理 接近的行動と非接近的行動	
7 8 9 10	8	5.効果的なコミュニケーションの実際 傾聴の技術、情報収集の技術 説明の技術、アサーティブネス	松原
11 12	4	【演習】コミュニケーション	中田
13	2	演習時の接近的行動と非接近的行動などについてリフレクション	阪上
14	2	6.コミュニケーション障害への対応	
15	2	終講試験/まとめ	神藤他

【教科書・参考書・参考資料等】　茂野香おる『系統看護学講座専門分野Ⅰ　基礎看護技術1 基礎看護学②（第17版）』医学書院、2019

竹尾 惠子『看護技術プラクティス 第3版動画付き』学研メディカル秀潤社、2018

【評価の方法】　筆記試験

専門分野

授業科目名	単位（時間数）	担当講師名	時期
基礎看護学方法論Ⅱ－1 (環境・活動・休息)	1単位(30)	吉本　理浦 菅原　悠太	1年次 前　期

【授業の概要および目標】
対象者の健康の保持・増進・疾病の予防及び健康の回復のた
能力に応じた援助ができる基礎的な技術を習得する。対象者の生活を捉えた環境・活動・休息の援助を科学的根拠に基づき看護を実践する基礎的能力を養う。

担当講師の実務経験	病院において看護師として従事した経験のある講師が担当する。

授業計画		授業内容	担当
回	時間		
1	2	健康生活における環境の意義と条件 療養生活における環境の構成因子と調整方法	吉本
2	2	病室の環境整備	
3	2	【演習】環境整備	
4	2	【演習】 ベッドメーキング・オープンベッド・クローズドベッド	
5	2	姿勢と体位の種類と基礎知識（廃用症候群、自動・他動運動） ボディメカニクスの意義と目的 ボディメカニクスの活用	菅原
6	2	体位変換の基礎知識 移動・移乗・移送の基礎知識	
7 8	4	【演習】 体位変換 臥床患者のシーツ交換	
9	2	【演習】 移動（歩行介助、杖歩行） 移乗（ベッドから車椅子・ベッドからストレッチャー） 移送（車椅子・ストレッチャー）	
10	2	睡眠・休息の基礎知識・アセスメント 安楽の意義と看護技術の基礎知識　（罨法）	
11 12 13	6	【演習】 安楽な体位（ピロー） 罨法（湯たんぽ・氷枕・氷嚢） 苦痛緩和（リラクゼーション・マッサージ・タッチケア）	
14	2	環境整備　技術試験	吉本
15	2	終講試験	吉本他

【教科書】
任 和子『系統看護学講座　専門分野Ⅰ基礎看護技術Ⅱ 基礎看護学③（第17版）』
医学書院、2018
香春 知永『系統看護学講座　専門分野Ⅰ 臨床看護総論 基礎看護学④（第6版）』
医学書院、2018
竹尾 惠子『看護技術プラクティス 第3版動画付き』学研メディカル秀潤社、2018

【評価の方法】
レポート提出、筆記試験

【学生へのコメント】
実際の患者に対し、看護ケアを行うにあたって「正しい方法」を身につけることが大切です。必ず予習し、援助方法をイメージトレーニングする習慣をつけ、演習後は必ず振り返り、十分なところはしっかり練習し技術を習得しましょう。

専門分野

授業科目名	単位（時間数）	担当講師名	時期
基礎看護学方法論Ⅱ－２ (清潔・衣生活)	1 単位(30)	秋吉　久美代	1 年次 前期・後期

【授業の概要および目標】
対象者の健康の保持・増進・疾病の予防及び健康の回復のために必要な日常生活行動援助を理論的・実践的に
る。
対象者の生活を捉えた清潔・衣生活の援助技術を科学的根拠に基づき看護を実践する基礎的能力を養う。

担当講師の実務経験	病院において看護師として従事した経験のある講師が担当する。

授業計画		授業内容
回	時間	
1	2	身体清潔の意義と目的 清潔の援助（清潔援助の基礎知識、清潔援助の実際）
2	2	清潔援助の目的と援助方法
3 4 5	6	【演習】 全身清拭
6	2	皮膚・粘膜のメカニズム 清潔ニーズのアセスメント
7 8	4	【演習】洗髪（ケリーパッド）
9	2	衣生活の意義と目的（病床での衣生活の援助） 寝衣交換の目的と方法（病衣、寝衣選択）
10 11	4	【演習】 寝衣交換（パジャマ・和式寝衣）　臥症患者の寝衣交換
12	2	【演習】洗髪（洗髪車）・足浴
13	2	【演習】洗髪（洗髪車）・足浴
14	2	技術試験（全身清拭）
15	2	終講試験/まとめ

【教科書】

任 和子『系統看護学講座　専門分野Ⅰ基礎看護技術Ⅱ 基礎看護学③（第17版）』医学書院、2018

香春 知永『系統看護学講座　専門分野Ⅰ 臨床看護総論 基礎看護学④（第6版）』医学書院、2018

竹尾 惠子『看護技術プラクティス 第3版動画付き』学研メディカル秀潤社、2018

【評価の方法】

レポート提出、筆記試験、技術試験

【学生へのコメント】

実際の患者に対し、看護ケアを行うにあたって「正しい方法」を身につけることが大切です。必ず予習し、援助方法をイメージトレーニングする習慣をつけ、演習後は必ず振り返り、十分なところはしっかり練習し技術を習得しましょう。

専門分野

授業科目名	単位（時間数）	担当講師名	時 期
基礎看護学方法論Ⅱ－３ （食事・排泄）	１単位（30）	岡田　万貴子 鎌田　みどり	１年次 前期・後期

【授業の概要および目標】

・対象者を看護の視点でアセスメントし、健康維持、増進、疾病からの回復のために必要な日常生活行動援助を理論的に理解し、ニーズ、セルフケア能力に応じた看護援助ができる基本的技術を習得する。

・講義、課題提出、演習への積極的な参加により看護実践能力を高める。

担当講師の実務経験	病院において看護師として従事した経験のある講師が担当する。

授業計画		授　業　内　容	担当
回	時間		
1	2	食行動のメカニズム 「口➡咀嚼➡嚥下➡消化・吸収」	岡田
2	2	食事のアセスメント方法（栄養状態・体内バランス、摂食能力） 食事療法	
3	2	健康障害と食事（食事摂取方法、自助具）　嚥下メカニズム	
4	2	嚥下アセスメント、摂食・嚥下訓練の援助、食事介助、口腔ケア	
5	2	【演習】　嚥下検査、食事環境の調整、食事介助、口腔ケア	
6	2	排泄の意義、メカニズム	鎌田
7	2	排泄のアセスメント方法　★レポート課題	
8	2	ストーマの援助（種類、援助方法）	
9	2	排泄の援助 ①使用器具　②自然排尿・排便　③感染予防　④排泄障害	
10	2	浣腸・摘便・導尿	
11	2	【演習】排泄援助の実際　便尿器の介助（床上排泄）	
12	2	【演習】排泄援助の実際　摘便・浣腸	
13	2	【演習】排泄援助の実際　ストーマ	
14	2	【演習】排泄援助の実際　導尿	
15	2	終講試験／まとめ	岡田他

【教科書・参考書、参考資料等】

任 和子『系統看護学講座　専門分野Ⅰ基礎看護技術Ⅱ 基礎看護学③（第15版）』医学書院、2018

竹尾 惠子『看護技術プラクティス 第3版動画付き』学研メディカル秀潤社、2018

【評価の方法】

レポート提出、筆記試験

専門分野

授業科目名	単位（時間数）	担当講師名	時 期
基礎看護学方法論Ⅲ （ヘルスアセスメント）	1単位（30）	金丸　宏枝	1年次 前　期

【授業の概要および目標】

対象者の健康状態を把握するための基礎的知識・技術を学ぶ。観察することは大変重要であり、「看護は観察で始まり、観察で終わる」と言われる。人間にとって生命徴候の意義を理解し、生命を維持するうえでのバイタルサイン（体温・脈拍・呼吸・血圧・意識）の測定技術を習得する。フィジカルイグザミネーションでは専用シミュレータ“Physiko”を用い、視診・聴診・打診・触診の技術、フィジカルアセスメントでは正常・異常や日常生活への影響や緊急性などの判断、情報を多角的に集め、対象の現在の健康状態だけでなく、心理・社会的状況も視野に入れたヘルスアセスメントを学習する。

担当講師の実務経験	病院において看護師として従事した経験のある講師が担当する。

授業計画		授　業　内　容
回	時間	
1	2	ヘルスアセスメントの目的と意義
2	2	バイタルサインの観察とアセスメント ①　体温　②脈拍
3	2	バイタルサインの観察とアセスメント ②　呼吸　④血圧
4	2	バイタルサインの観察とアセスメント ⑤意識 記録(経過表：フローシート・熱型表) 身体計測
5	4	【デモストレーション】バイタルサインの観察・測定と報告 【演習】バイタルサインの観察・測定、熱型表記入　報告
6		
7	2	アセスメントの実際：呼吸器系
8	2	アセスメントの実際：循環器系
9	2	アセスメントの実際：中枢神経系　感覚器系
10	2	アセスメントの実際：運動器系　乳房・腋窩
11	2	アセスメントの実際：消化器系　心理・社会状態
12	4	【デモストレーション】身体計測　フィジカルアセスメント 【演習】フィジカルアセスメント
13		
14	2	演習　/　技術試験（バイタルサイン）
15	2	終講試験　/　まとめ

【教科書】 茂野香おる『系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護技術Ⅰ 基礎看護学②（第 17 版）』医学書院 竹尾 惠子『看護技術プラクティス 第 3 版動画付き』学研メディカル秀潤社
【評価の方法】技術試験、筆記試験
【学生へのコメント】事前学習をして授業に出席し演習後自己練習してください

専門分野

授業科目名	単位（時間数）	担当講師名	時 期
基礎看護学方法論Ⅳ （呼吸・循環を整える技術）	１単位（15）	松原　希実子	１年次 後　期

【授業の概要および目標】

呼吸・循環を整える技術は医師の指示の下で行うのが大半であるが、実施は看護師である。

呼吸・循環を整えるケアが必要な患者は、特に重篤である場合が多く、その状態には著しい変化がある。呼吸・循環を含めて、人間の身体構造と機能に関する統合的アセスメントする能力と異常を見逃さない観察力も必要である。呼吸・循環を整える知識・技術を学ぶ。

担当講師の実務経験	病院において看護師および助産師として従事した経験のある講師が担当する。

授業計画		授　業　内　容
回	時間	
1	2	酸素吸入療法が必要な患者の看護 目的・適応・種類・方法・留意点・観察点・援助
2	2	時的吸引・持続吸引が必要な患者の看護 目的・適応・方法・留意点・観察点・援助
3	8	【演示・演習】酸素吸入の実際 一時的吸引、ネブライザーを用いた吸入、弾性ストッキング装着
4		
5		
6		
7	2	まとめ
8	1	終講試験

【教科書】

茂野 香おる『系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護技術Ⅰ 基礎看護学②』医学書院, 2018.

任 和子『系統看護学講座 専門分野Ⅰ基礎看護技術Ⅱ 基礎看護学③』医学書院, 2018.

竹尾 惠子『医療安全と感染管理をふまえた看護技術プラクティス 第3版』学研, 2018.

【評価の方法】

筆記試験

専門分野

授業科目名	単位（時間数）	担当講師名	時 期
基礎看護学方法論Ⅴ （創傷管理・与薬・感染予防・安全）	1 単位（30）	岡田万貴子 菅原　悠太 神藤　めぐみ	1 年次 後　期

【授業の概要および目標】
・安全・安楽に留意し、看護の視点と倫理観を合わせ持った看護技術を習得する。
・講義、グループワーク、演習を組み合わせた授業を展開する。

担当講師の実務経験	病院において看護師として従事した経験のある講師が担当する。

授業計画		授　業　内　容	担当
回	時間		
1	2	感染予防の基礎知識　　衛生的手洗いの習得	岡田万
2	2	院内感染と標準予防策　　清潔野と無菌操作	
3	2	皮膚損傷の定義 創傷（褥瘡）の処置と援助	神藤
4	2	褥瘡の予防と処置の実際	
5	2	【演習】衛生的手洗い　標準予防策　無菌操作　創傷処置　包帯法	岡田万
6	2	与薬の基礎知識　薬物の基本的性質　看護師の役割	菅原
7	2	経口与薬･口腔内与薬（バッカル錠･舌下錠）　吸入　点眼　点鼻　経皮的与薬 直腸内与薬	
8	2	【演習】 直腸内与薬　経口与薬	
9	2	注射の基礎知識　針刺し防止の基礎知識　　注射の実施法　針刺し防止対策の実際 （皮内、皮下、筋肉内、静脈内、点滴静脈内、中心静脈カテーテル留置） 輸血の管理	
10	2	【演習】 静脈血採血、皮内注射、皮下注射、筋肉内注射、点滴内静脈内注射、輸液ポンプ操作	
11	2	安全確保の基礎知識 看護事故の種類と発生要因 誤薬防止（抗がん剤・インスリン・麻薬）（指示受け、準備段階　実施段階） チューブ類の予定外抜去防止 患者誤認防止 転倒転落 薬剤・放射線暴露の防止	神藤
12	2	医療事故の予防法、インシデントとアクシデント　レポートの書き方	
13	2	生体機能管理技術、検査・処置の介助	
14	2	技術試験（無菌操作）	岡田万
15	2	終講試験/まとめ	岡田万他

【教科書】 任　和子『系統看護学講座　専門分野Ⅰ　基礎看護技術Ⅱ　基礎看護学③（第 17 版）』医学書院 香春 知永『系統看護学講座　専門分野Ⅰ　臨床看護総論 基礎看護学④（第 6 版）』医学書院 竹尾 惠子『看護技術プラクティス 第 3 版動画付き』学研メディカル秀潤社
【評価の方法】 技術試験、筆記試験
【学生へのコメント】 事前準備をして、授業に臨んでください。 積極的に技術の習得に努めてください。

専門分野

授業科目名	単位（時間数）	担当講師名	時 期
基礎看護学方法論Ⅵ （看護診断）	１単位（30）	中田　恵美	１年次 前期・後期

【授業の概要および目標】

・看護過程を構成する要素とそのプロセス、また看護過程を用いることの意義を理解する。

・看護過程展開方法を、事例を用いて基本的な考え方と実際を学ぶ。

担当教員の実務経験	病院において看護師として従事した経験のある講師が担当する。

授業計画		授　業　内　容
回	時間	
1	2	看護過程とは何か（1）
2	2	看護過程とは何か（2）
3	2	看護過程と看護診断
4	2	アセスメントとは何か
5	2	看護診断とは
6	2	看護計画・実施・評価
7	2	事例を用いて（関連図の書き方）
8	2	アセスメント①
9	2	アセスメント②
10	2	アセスメント③
11	2	アセスメント④
12	2	看護計画
13	2	実施・評価
14	2	まとめ
15	2	終講試験/まとめ

【教科書】

茂野　香おる『系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護技術Ⅰ 基礎看護学②（第 17 版）』医学書院

2019　ゴードンの機能的健康パターンに基づく看護過程と看護診断　　ヌーベル廣川

リンダ J. カルペニート著　竹花富子訳『看護診断　ハンドブック』　医学書院

これなら使える看護介入　第２版　医学書院

【評価の方法】

レポート提出、筆記試験

【学生へのコメント】

講義の中で知識を習得し、思考過程を身につけましょう

授業科目名	単位（時間数）	担当講師名	時期
地域看護学概論	1 単位（30）	大鍋　マキ	1 年次 後期

【授業の概要および目標】

地域包括ケアシステムや地域医療の構想が推進され、人々の療養の場が医療現場だけでなく在宅や施設など多様になっている社会背景を理解する。また、それぞれの機能や役割や関連する職種の専門性を理解し、その専門性を活かし地域の多様な場で対象に対して、必要なケアが継続して提供され、その人らしく生活できるよう、必要とする制度や支援について学ぶ。また、看護活動を行う対象の療養環境である地域や暮らしも理解する。

授業計画		教育内容
回	時間	
1	2	在宅看護の目的と特徴・対象
2 3 4	6	地域の理解 ① 人々の暮らし　【演習 1】 ② 家族の概念 ③ 地域の概念　【演習 2】
5 6 7	6	在宅療養者の暮らしを支える看護 ① 暮らしを支える地域・環境・対象と提供方法 ② 家族・ライフステージに応じた看護 ③ 暮らしにおけるリスク・災害対策
8 9	4	看護実践の場と連携 ・ヘルスプロモーションとは ・アクティブエイジングとは　【演習 3】
10	2	制度とその活用　　医療保険・介護保険
11 12	4	訪問看護の制度
13	2	家族への看護　【演習 4】
14	2	意思決定支援　「もしバナゲーム」　【演習 5】
15	2	終講試験／まとめ

【教科書】系統看護学講座　地域・在宅看護論 1・2

【評価の方法】授業態度、グループワークの参加状況、課題レポート、筆記試験で総合的に評価

【学生へのコメント】

「疾病や健康障害を負っても、自分らしく地域で生活したい」という人々のニーズに応える看護の役割は、今後も増大していきます。そのニーズに応えられるよう、必要とする看護活動について学んでいきましょう。また、地域で暮らす人々も看護の対象となります。健康状態に関わらず、地域で暮らす人々が健康に暮らすための地域や暮らしに必要とする看護活動について考えていきましょう。

そして、自分自身の看護観も他の学生とのグループワークを通して深めていきましょう。

専門分野

授業科目名	単位（時間数）	担当講師名	時 期
成人看護学概論	１単位（30）	吉本　理浦	１年次 後　期

【授業の概要および目標】

ライフサイクルの中の成人期にある人の成長・発達の特徴、生活と、健康及び成人を取り巻く保健・医療・福祉政策について概観し、成人看護の役割について学習する。

また成人期にある人を理解したうえで、効果的なアプローチをするために活用可能な理論について学習する。

担当講師の実務経験	病院において看護師として従事した経験のある講師が担当する。

授業計画		授　業　内　容
回	時間	
1	2	成人看護学および概論の位置づけと学習 成人看護学が対象とする人の理解 成人発達の特徴
2	2	成人期にある人々の健康と健康問題
3	2	成人期に見られる健康障害 　生活習慣病の種類と発生状況、職業に関連する健康障害
4	2	病気の経過と看護の特徴　(急性期～回復)
5 6	4	健康教育・患者教育　地域活動に参加 ヘルスプロモーション
7 8	4	慢性期　～病みの軌跡～―
9 10	4	終末期　～成人看護実践における人権擁護と看護の役割～
11	2	成人看護学に活用できる理論 (健康促進、成人教育、健康行動理論、ストレス、人間の行動)
12	2	ストレス理論、セルフケア理論
13	2	エンパワメント教育・自己効力感
14	2	セルフマネジメント支援
15	2	終講試験／まとめ

【教科書・参考書・参考資料等】

小松　浩子『系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学総論 成人看護学①（第 15 版)』医学書院、2018

【評価の方法】

筆記試験

専門分野

授業科目名	単位（時間数）	担当講師名	時 期
老年看護学概論	1 単位（30）	阪上　弥佐子	1 年次 後　期

【授業の概要および目標】

ライフサイクルにおける老年期の特徴を身体的、心理的、社会的側面から理解し、加齢に伴う変化が日常生活に及ぼす影響について学習する。老年者を取り巻く社会の動向、高齢社会における保健医療福祉制度や施策、老年看護の役割と機能、看護活動の場について理解する。

担当講師の実務経験	病院において看護師として従事した経験のある講師が担当する。

授業計画		授　業　内　容
回	時間	
1	2	老年看護学および概論の位置づけ 老年期を生きる人々の特徴 - 健康な老年者 -
2	2	加齢と老化（身体的側面・心理的側面・社会的側面）①
3	2	加齢と老化（身体的側面・心理的側面・社会的側面）②
4	2	高齢社会の統計的輪郭①
5	2	高齢社会の統計的輪郭②
6	2	高齢社会における保健医療福祉の動向
7	2	保健医療福祉制度システム
8	2	介護保険制度
9	2	介護保険サービス
10	2	高齢者医療のしくみ
11	2	高齢社会と権利擁護 - 虐待 -
12	2	高齢社会と権利擁護 - 身体拘束 -
13	2	老年看護の役割
14	2	理論概念の活用
15	2	終講試験／まとめ

【教科書】

北川 公子『系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学』医学書院

【評価の方法】

レポート提出、筆記試験

【学生へのコメント】

分野

授業科目名	単位（時間数）	担当講師名	時 期
精神看護学概論	1 単位（30 時間）	吉野　かほる	1 年次 後期

【授業の概要および目標】

・精神保健・精神看護の概要を理解する。

・現在社会における精神保健・看護ニーズの高まりを理解する。

・精神医療の歴史、精神障がいに関する主要な法律を理解する。

・心の発達とその危機的状況について理解する。

・精神医療における専門職連携の必要性と看護の役割を理解する。

授業計画		授　業　内　容
回	時間	
1	2	精神の健康と傷害 1.精神の健康とは　2.精神障がいとは　3.患者理解「べてるの家」
2	2	精神福祉の沿革・歴史と現在の姿 精神看護学における精神保健　①精神障害と精神保健　②心の健康と精神的健康 メンタルヘルスの定義　③精神的健康（メンタルヘルス）の保持・増進
3	2	地域保健（コミュニティー・メンタルヘルス）における予防 ①リカバリーを基盤とした精神医療・看護モデル ②精神看護の役割と専門性
4	2	心のはたらき　心の構造
5	2	ライフサイクルと精神保健　パーソナリティに関する主要な理論
6	2	心の危機状態と精神保健　①危機モデル　②ストレスコーピング
7	2	家族と心の健康（DV,ハラスメント、児童虐待）
8	2	暮らしの場（学校・職場）と心の健康（いじめ・引きこもり・不登校）
9	2	地域・現代社会における心の健康（自殺・自傷行為・アルコール依存薬物問題・ギャンブル依存・IT 依存　等）
10	2	精神障害の医療・保健・福祉におけるチームアプローチと社会資源 ①地域包括政策
11	2	招聘講義　（精神しょうがい者当事者会、河内長野市社会福祉協議会） ②地域包括政策の実際
12	2	ストレングス理論とレジリエンス。トラウマ・インフォドームケア
13	2	精神医療における危機理論とマネージメント・司法看護
14	2	患者理解（倫理綱領）レポート
15	2	試験

【教科書・参考書，参考資料等】

『系統看護学講座　専門Ⅱ　精神看護の基礎　精神看護学①』　医学書院

【評価の方法】

出席状況、レポート、筆記試験で総合的に判断する。

【学生へのコメント】

積極的な授業態度を期待します。

学籍番号

名前